

りす

Lv 24



学

図

司

得意なこと

受入マスター

受入業務は私におまかせ！



なぜ大学図書館員になったのか

図書館業務を通じて学生や先生方の学習・研究を支えることで、学びの場に関わり続けたいと考えたため。

得意な（好きな）仕事

選書・受入の仕事や、直接カウンターや閲覧室で利用者の方々と接する仕事、メールなどで案内する仕事に慣れており、得意に感じております。

苦手な（嫌いな）仕事

システム構築に関わる仕事は未経験で苦手感じております。

大学図書館で働く押しポイント

資料の提供などを通じて、学内外の様々な分野の学生・先生方や他機関の図書館などで働く方と関わることで、国や地域の将来の発展にも間接的に貢献でき、自らも学び続ける機会が得られること。

私が考える2050年の大学図書館

大学での学習や研究に欠かせない資料提供の場でもあり、利用者間の交流の場。

ほなけん

LV 18



学

図

司

得意なこと

Excelを使ったデータの処理

意外にも、図書館では多量のデータを処理しないといけません。



なぜ大学図書館員になったのか

図書館を良く利用することがあり、図書館という空間が好きで就職したいと思っていました。ただ、大学図書館と公共図書館が結構違うということは、就職するまで深く考えていませんでした。

得意な（好きな）仕事

カウンターで利用者に本の探し方やデータベースの検索の仕方などの説明するのは最近好きになりました。分からないことだと焦ることもありますが、自分が分かる範囲で精いっぱいという気持ちで説明すると、喜んでもらえることが多く嬉しくなります。

苦手な（嫌いな）仕事

掲示物の作成。センス良く、必要な情報を漏れなく作成するのは難しく、いつも誰かやってくれないかなと思っています。

大学図書館で働く推しポイント

大学図書館は、私が就職した約20年前と今とでも変わっていますし、これからもどんどん変わると思っていますので、こういう仕事楽しいよ、ということは難しいのですが、図書館で働いている人にも、図書館を利用する人にも、図書館が好きです、という方が結構います。図書館が好き、という方が近くにいると仕事に対する肯定感が高くなります。それは図書館で働くにあたっての変わらない良いところではないかと思います。

私が考える2050年の大学図書館

想像もつかないですが、図書や雑誌などの中身は全てメタバースで利用できるようになっているとか。情報技術はこれからもどんどんと進歩すると思うので、もっと想像を超えてきてくれるのではないかと楽しみです。

ラーめんたいこ Lv10



学

独

IPA

司

得意なこと

誤字チェックの鬼

決裁文書の誤字は見逃しませんっ
(でも自分は誤字る)



なぜ大学図書館員になったのか

大学という空間が好きだったので、図書館の中でも大学図書館を希望しました。とは言っても在学中の就職活動は失敗し、卒業後に私立大学図書館に嘱託職員として採用され、その後転職して国立大学の図書館員になりました。なれました。

得意な（好きな）仕事

イベント・講習会企画 / イマドキの大学生に刺さる何かを求めて日々情報集めに動んでいます。自分が学生だった頃よりもはるかに忙しい学生さんでも参加したい・参加してよかったと思ってもらえるような企画を考えるのが楽しくもあり辛くも…いや、大好きです。

苦手な（嫌いな）仕事

寄贈図書の受入判断 / 資料価値がない資料などこの世には存在しないのですが、図書館の書架には限りがあるので…。回ってきた資料の中身を確認して「本学には不要」と判断するのはとても心苦しい作業です。

大学図書館で働く押しポイント

どんな小さなことでも自分の仕事が所属する組織の誰かの役に立つ、そう思えることです。教員や研究者、学生から時折もらえる「ありがとう」「助かった」の音がとても励みになります。

私が考える2050年の大学図書館

資料の電子化・オープンアクセス化が進み、資料目的の来館者は減るのかなと思っています。それだけに図書館という空間をより良いものに進化させていき、大学で暇になったら「とりあえず図書館でも行こうか」と思われる場所にしていきたいです。

ねも

Lv21



他

庁

転

H 司

私の前職

病院事務

得意なこと

参考調査の調べ♪

文献探しは長年担当していたので。

なぜ大学図書館員になったのか

自分の好きな本に囲まれた仕事であること、専門的な調査関係の仕事が面白そうだったと思ったので。あと、公共図書館よりも図書館に勤められる確率が高そうだったから。

得意な（好きな）仕事

体を動かすことと断捨離が好きなので、資料の整理はかなり好きです。ある程度自分ペースで進められる仕事で、書架整理も廃棄も成果が目に見えてスッキリすることや、たまに古い資料に埋もれていた良い資料と出会えるお徳感があるので。

苦手な（嫌いな）仕事

各種統計の回答作成。各統計に合わせて数値を出さなくてはならないうえ、細かい数値の算出が本当に面倒なので、毎年この時期はストレスが溜まります。

大学図書館で働く押しポイント

特定の分野についてディープな知識を得ることができるので、スペシャリストになりたい人は向いていると思います。また、参考調査は一筋縄じゃ行かない難問もあるので、謎解き好きにもおすすめです。

私が考える2050年の大学図書館

電子書籍が増え、非来館サービスの割合が今より増えている気がします。自宅から気軽に図書館の図書を使える半面、外国雑誌は超高級品になっていて、文献単位の閲覧、入手が主流になっているかも？（そうならないといいのですが）

α · ω · α (ひつじ) Lv17



学

図

IPA

司

得意なこと

雑誌関連業務、目録(図書・雑誌)業務
雑誌と目録はおまかせあれ。



なぜ大学図書館員になったのか

大学で「大学図書館には未整理の古文書資料が眠っている」という話を聞き、未整理資料を世に出してあげたいと思い、志望しました。(就活の年だけ公共図書館の求人がなかったのも一因)

得意な(好きな)仕事

勤務先では直接、目録業務に携われる機会が減少している中、図書と雑誌の両方を経験している稀な存在のようなので、得意かは別としてある種のステータスになっています。(苦笑)

苦手な(嫌いな)仕事

海外資料(特にキリルやハングル)の書誌作成。

大学図書館で働く押しポイント

最新の研究動向を身近に感じることが出来る仕事です。知的好奇心が強い方にこそ、公共図書館よりも大学図書館をお勧めしたいです♪

私が考える2050年の大学図書館

古文書や古典籍資料のデジタル化が進み、非来館型の利用が中心となる未来を予想していますが、現物の資料の重要性は失われないと考えています。どんな形であれ、現在より何歩も進んだ知の拠点であって欲しいです。

カナレット

LV 9



得意なこと

マルチタスク

目録業務の合間にカウンター対応★



なぜ大学図書館員になったのか

中学生の時図書委員を経験して、図書館での仕事に興味をもったから。大学図書館で学生アシスタントを経験したことで、研究を支える大学図書館の役割に興味を持ったため大学図書館を選びました。

得意な(好きな)仕事

所蔵データの整備:現物とデータがピタリと一致していると気持ちいい。

苦手な(嫌いな)仕事

ガイダンス:大勢の学生の前で話すのは何度やっても緊張する。

大学図書館で働く推しポイント

大学という場の中でも特にアカデミックに近い部署であること。日々触れる資料には知らない知識がたくさん詰まっていて、新たな興味関心を持つことも多いです。

私が考える2050年の大学図書館

オンライン資料が今よりもっと活用されるようになっていて、紙資料はめったに使用されず書庫に大事にしまい込まれていたり…。

広里ふかさ

Lv 27



他



IPA

司

得意なこと

グッド・コミュニケーション

図書館の外の人と仲良くなる



なぜ大学図書館員になったのか

図書館職員を最初から目指していたわけではなくて、研究に行き詰まり、まずは自活するため、自分のできることを活かしました。そのまま定年まで行きそうですが。

得意な（好きな）仕事

返本。データの加工。調べもの。デザイン全般。人の話を聞いて質問をして深める。お節介。

苦手な（嫌いな）仕事

規則を守るやつ全般（規則を変えることを考えてしまう）。断ること。切り捨てること。

大学図書館で働く押しポイント

良い本がいっぱい揃っていて、空気が澄んでいて静かで自由な雰囲気です。

私が考える2050年の大学図書館

私はくたばってるかもしれませんが、私の貼ったラベルは書庫の中で残っているかも。。

吉田南子

Lv18



得意なこと

カウンタースマイル

カウンターで利用者と接すること。



なぜ大学図書館員になったのか

自分の大学生時代の卒論・修論執筆の際、大学図書館の ILL サービスにとってもお世話になり、自分も図書館員になってアカデミックの世界に貢献したいと考えたため。

得意な（好きな）仕事

人と接する仕事。利用者や同じ図書館の職員、他の図書館職員、図書館以外の部署の職員など、人と関わりながら一緒に仕事を進めていくことに喜びを感じます。

苦手な（嫌いな）仕事

特になし。

大学図書館で働く推しポイント

アカデミックの世界は、現在流通している技術や知識よりも一步進んだ科学技術が生まれる場所で、未来の世界とも言えます。その世界を間近でみながら、自分の貢献によって、その世界の進むスピードが加速するとしたら、ステキなことだと思いませんか。

私が考える2050年の大学図書館

新しい本はほとんどが電子書籍。昔の本は紙しかないので、受取スポットに行って、本を受け取って利用する。図書館という場所はなく、学内にいくつか自習スポットが点在している。学習・研究支援は専門のスタッフが担当し、レファレンスサービスやライティングのフォローも可能。図書館職員は電子ジャーナルやデータベース、研究データの管理をしているらしいが、あまり見かけないので詳細は不明。

春風さん

Lv2



学

図

転

司

私の前職

市役所（地方公務員 事務職）

得意なこと

開館作業

学生さんが来る前に、図書館の環境を整えます！



なぜ大学図書館員になったのか

中学生のとき学校の図書館が大好きで、子供心に図書館に住みたい！と考えました。その後大学図書館の規模の大きさに一目惚れして、やっぱりここに住みたい！！と熱烈に思いはじめ……「住むのは無理でも、働くことはできる！」と思いつき、実行した結果が現状です。

得意な（好きな）仕事

開館作業。だだっぴろい大学図書館で、薄闇の中、電灯を点けてまわる。ついでに、はたきを持ってパタパタほごりや消しカスをはらいながら、本が出っぱなしになっていないか、机や椅子が壊れていないか、確認するのも忘れない。こうした日々の積み重ねの上に、居心地のいい図書館環境が成り立ちます。

苦手な（嫌いな）仕事

現金の取り扱い。論文のお取り寄せや資料の複写の関係で、どうしても発生するお仕事。けれど毎日あるわけではないので、油断しがち。そしてうっかりミスしてしまうと、お金関係は後始末が大変で……という、細かいですが油断大敵なお仕事です。

大学図書館で働く推しポイント

小中高校の学校図書館より開かれていて、市立や県立の図書館よりディープな図書館、それが大学図書館です。対象は若者からご年配の方まで、目的は教育・研究を支援すること。我ながら、知的で落ち着いていてかっこいい職場だと思います。

私が考える2050年の大学図書館

電子版の資料ですら、もう古い！？と言われるくらいの新アイテムが登場しているかもしれない！それでも、貴重な紙の資料も大事に保管されていたらいいですね。

栗真町屋育ち

Lv16



学

図

転

司

私の前職

屋外広告社、地方雑誌社、市教育委員会

得意なこと

図書館ヘルパー

館内で困っていそうな人を見つけること。

なぜ大学図書館員になったのか

百科事典の「をみよ」「をもみよ」で事項が繋がっていくことが楽しい・事辞典を使って人の役に立てる仕事をしたい・未来を担う人たちの育成に携わりたい。

得意な(好きな)仕事

書架整理:今日の作業ではどんな資料に出会えるのか予想外の発見にワクワク。

苦手な(嫌いな)仕事

システム系:技術や情報の更新早すぎて追いつかない。

大学図書館で働く推しポイント

学術世界の最先端の情報に常に触れられること・若者の生活文化が身近なこと。

私が考える2050年の大学図書館

資料保存系司書がもっと重宝される研究図書館になっていけば素敵です。



アニエス

LV 35



学

独

司



得意なこと

アイデアフラッシュ

アイデアを出すのが得意だと思われていて、自分でもそうかもと思います。



なぜ大学図書館員になったのか

ほんの成り行きでなりましたが、周りの同級生からは「本好きだし、似合ってるよ」との声が多く上がり、そうかも、と思ったら、結局そうでした。

得意な（好きな）仕事

だいたいなんでも大丈夫ですが、やはり企画立案的なことやexcelでのリスト化やとりまとめなどが好きかもしれません。あと、配架整備など地味すぎて自分と闘いながら行う作業も好き？得意？な気がします。

苦手な（嫌いな）仕事

図書系の業務の中で特に嫌というものはなく、たぶんなんでも大丈夫です。ただ、図書系以外の仕事は無理かな、と思います。例えば総務的な仕事や会計系の業務でも図書系で、ならできますが、（実際にそのような業務のウェイトが年々増していくと思います）学部等で総務専門、会計専門というのは嫌かな、想像できないな、無理だな、と思います。

大学図書館で働く推しポイント

何でもできる！色々できる！やらせてくれる！即ち自分から提案して実施できるというのが他系と比べた時の推しかな、と思います。業務も多岐にわたり日々の地味な事務作業あり、様々なイベントあり、増改築計画、震災復旧といったダイナミックな事業もあり、貴重な資料との出会いあり、また、各種研修も多く、業務で他大学や他機関との連携もあり、相対的に（イヤ絶対的に）面白いと思います。「キダハミ」のようなことも他系では考えにくいように思います。

私が考える2050年の大学図書館

難しい問いだと思います。まず、現在のようなリアルな大学が残っていて、図書館もリアルで残っていると良い、と思います。現状でも図書館に資料よりは場を求め方が多くなっている印象を受けるので、2050年になっても場としての図書館、ハブとしての図書館職員が存在していると良いと思います。

とつと

Lv10



学

図

司



得意なこと

書架整理アライメント

乱れた本を並べ直したりして整える。



なぜ大学図書館員になったのか

研究・教育の場としての大学に魅力を感じ、学術情報の集まる場である図書館は個人の好奇心を満たすにも丁度良い場所だと思ったから。

得意な(好きな)仕事

古資料(単に古い、未遡及で来歴に目くのある資料群など)の修繕や整理。

苦手な(嫌いな)仕事

お金の関わる帳簿関係。

大学図書館で働く推しポイント

大学というある種クローズな世界にある一施設、反対に地域・街の中にある公共施設という2つの側面から業務にアプローチできる職種であること。

私が考える2050年の大学図書館

発達するデジタル情報と、それに反比例して難しくなるであろう紙資料の収集保存という、専門性の2極化が進む。

スターリーすかい

Lv 7



学



司

得意なこと

丁寧な利用者対応

お尋ねをしてきた方がなるべく欲しい情報を得られるよう心がけています。



なぜ大学図書館員になったのか

大学時代に司書資格を取るなど図書館に興味はありましたが、就活は市役所などが中心でした。たまたま国立大学図書館での採用が多い年だったので半分記念のつもりで図書館枠で応募したところ、他は全部落ちて国立大学図書館だけ採用となり、大学図書館員になれることになりました。

得意な(好きな)仕事

カウンターなどの利用者対応が好きです。もちろん定型のサービスはありますが、カウンターでは毎日違うことが起こるので楽しいです。

苦手な(嫌いな)仕事

締切がない仕事は先延ばしにしていまいがちで苦手です。掲示物の刷新や対応マニュアルの整備など、利用者対応は締め切りがない仕事が多いですが……。

大学図書館で働く推しポイント

大学図書館には様々な人が集まり、様々な物が集まり、様々な情報が集まります。たくさん人や物や情報が集まる場所では、当然様々な事件が起こります。この事件を解決していくのが大学図書館で働く醍醐味だと思います。

私が考える2050年の大学図書館

正直なところ、予想ができません。空を飛んでいたら楽しそうだと思います。

しゅういち

LV 4



学



転

司

私の前職

フリーター

得意なこと

ILL

図書館間相互利用のコンダクター

なぜ大学図書館員になったのか

一番の理由は図書館という「空間」がとても好きだからです。静けさや紙の匂いなども含めた図書館という空間そのものが好きです。

得意な(好きな)仕事

好きな仕事：(まじめな、やさしい、礼儀正しい、真剣な、勤勉な、丁寧な)利用者への対応。

得意な仕事：参考調査。

苦手な(嫌いな)仕事

(厄介な)利用者対応。

大学図書館で働く推しポイント

美術館や博物館の割引があるのと、利用者(学生)が若いのでなんとなく自分も若いつもりになれます。

私が考える2050年の大学図書館

ありとあらゆるデータの集積場。また、学生や研究者がサロンのように生きた情報交換を行える憩いの場。



学

図

H 司

得意なこと

メモを作ること

マニュアルに書くほどでもないことを割と書き残しておきます



なぜ大学図書館員になったのか

司書講習で、確実に図書館に就職するにはどうしたらよいですかと質問したところ、大学図書館の試験に合格するのがよいでしょうと教えていただいたため。

得意な仕事

情報リテラシー。

苦手な仕事

連絡調整が必要な仕事。いつも右往左往します。それから集中力が必要な仕事。とても気が散りやすいので。

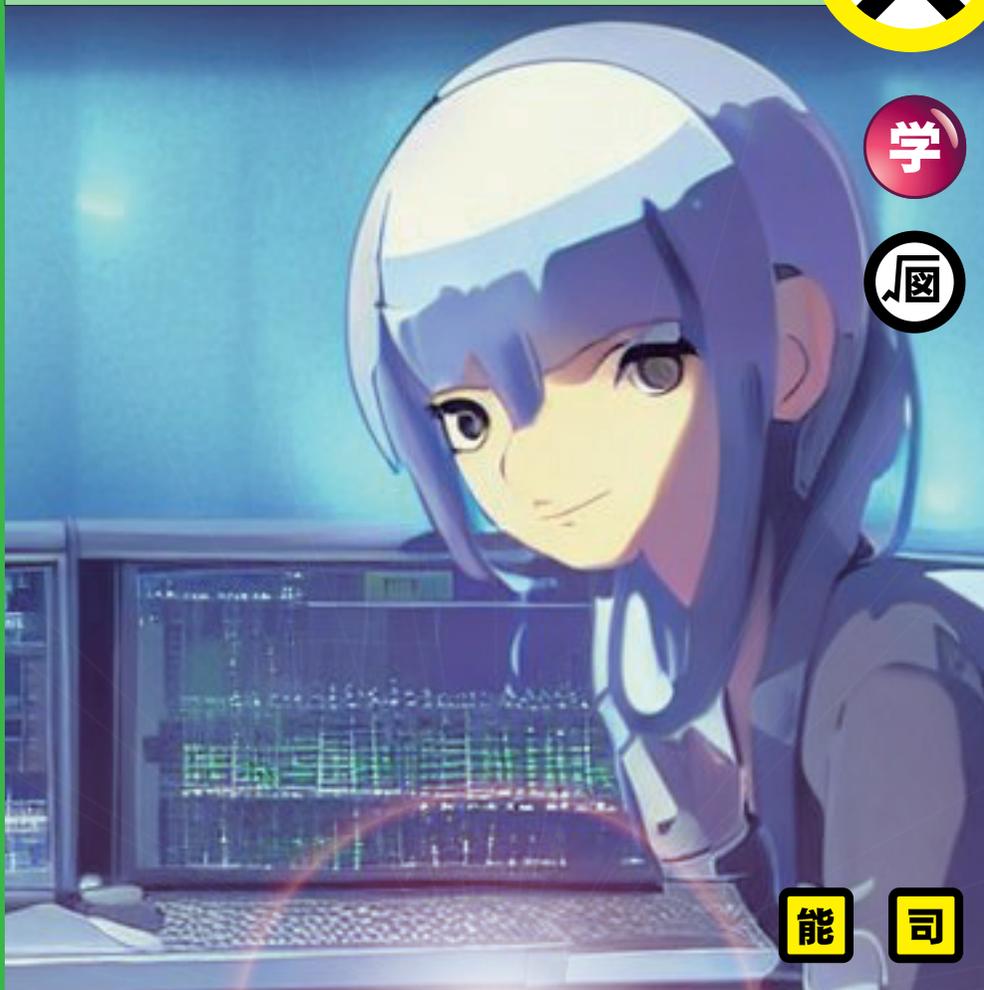
大学図書館で働く押しポイント

情報の収集、活用という面で学生、教職員の役に立っていると実感できること。やりたいことが自然と出やすいところ。やりたいことがある、というのは大事なことと思います。

私が考える2050年の大学図書館

大学図書館は、情報をキーワードにして「学び」のプロセスを提供できる存在であるべきだと思っています。そしてそれは2050年でも不変かなと思います。

さすらいのかたるがー Lv16



得意なこと

図書目録の書誌作成・修正

データを世界で利用できるように★



なぜ大学図書館員になったのか

元々、将来は図書館で働きたいと思っていました。しばらくは漠然と公共図書館をイメージしていましたが、学生時代に大学図書館でアルバイトをして楽しかったのがきっかけで大学図書館勤務を目指しました。

得意な仕事

得意なことに同じく、書誌の作成・修正。自分が入力したデータがCiNii Books上で全世界に公開され、利用者が検索することで資料にたどり着く一助となることに、やりがいを感じます。

苦手な仕事

データの整理・分析はやや苦手です。

Excelの関数やマクロの知識があまりないため、周りの力を借りながら進めています。

大学図書館で働く押しポイント

沢山の資料に囲まれながら、いかに利用者に橋渡しするか。カウンターで直接対応する場合も、裏方として契約や整理を担当する場合も、資料の向こうの利用者を思い浮かべつつ働くのが楽しいです。

私が考える2050年の大学図書館

約30年後。資料の電子化は今より更に進んでいるかと思いますが、紙の資料保存も並行して続けつつ、大学の知の財産として存在感を示していてくれたら、と思います。

アップリン

Lv15



学

図

転

司

私の前職

学校事務 (非常勤パート)

得意なこと

オリエンテーション・ガイダンス

得意ではないですが頑張っています。



なぜ大学図書館員になったのか

高校時代に図書委員で司書の先生から図書館情報大学を
教えてもらい進学し、地元では公共図書館で司書枠がなく
大学図書館へ・・・という流れです。

得意(好き)な仕事

レファレンス、パスファインダー作成、Excelで面倒な仕事を
Accessにすること。お知らせ・掲示物作成。

苦手(嫌い)な仕事

議事録作成。仕様書作成。

大学図書館で働く推しポイント

学生・教職員の方の調査・研究をアシストすることで自分も刺
激を受けますし、いつでも自ら学べる環境で働くことができる
のは恵まれていると思います。

私が考える2050年の大学図書館

電子資料が充実して、図書館に来なくても資料の利用がで
きる一方で、会議やグループ学習など取って学ぶ人が集まる
場所になると思います。所属者の論文のレポジトリの提供、
貴重になった紙の資料の保管庫など、資料と人を結ぶハブ
としての役割は変わらないと思います。

Bush Clover

Lv 25



修

図

転

司

私の前職

フリーター

得意なこと

ナツシング

得意なことがなく日々精進しています。



なぜ大学図書館員になったのか

楽そうだった本音はともかく、知識を求める人に少しでも情報提供できる仕事を探していました。

得意な(好きな)仕事

得意なことがなく日々精進しています。

苦手な(嫌いな)仕事

ほぼ全般です。

大学図書館で働く押しポイント

学習支援、教育支援、研究支援、課外活動支援、企画・立案、広報・実施、古典から最先端まで、何でもできます。どんな得意分野でも生かせる職場です。

私が考える2050年の大学図書館

図書館という名にこだわらないものであってほしいですね。

Boosca

Lv 27



学

図

転

IPA

司

私の前職

銀行員

得意なこと

じよせき&はいき
資料をすてること。

なぜ大学図書館員になったのか

新卒時には、狭き門の突破は無理と思い、民間に就職したが、超ブラック！ 民間時代に得た知識が一次試験の内容とマッチしていたこと、公共図書館より利用者層が限定される大学図書館の方が働きやすいと思ったため受験し、現在に至る。

得意な(好きな)仕事

得意という訳ではないが、何故か、転勤する大学で、改築や増築などのタイミングにぶち当たり、やたら図面をみたり、引越しをしたり、資金調達したりしている。

苦手な(嫌いな)仕事

腰痛持ちなので、低い場所の配架作業、アレルギー持ちなので、カビ資料対応。

大学図書館で働く推しポイント

非常に知的好奇心をみたされる職場！世の中を変えていくであろう最新研究の場で、それに関わる人や情報の中で、サイクルの一端に加わり、仕事をするのはとてもワクワクする！

私が考える2050年の大学図書館

「あれっほっちの情報しか扱えない紙のツールで授業をうけたり、研究をしていたなんて信じられない。」なんて学生がいるなかで、私は、どのような仕事をしているのだろうか？

あ、働いていないわ。悠々自適だといいな。



たまさん

LV 8



学



転

司

私の前職

公共図書館

得意なこと

本を探ること
みつけてみせます。

なぜ大学図書館員になったのか

本が好きで、図書館が好きで、人に本を紹介するのが好きだから。

得意な(好きな)仕事

書架整理。

苦手な(嫌いな)仕事

数字…。(会計や統計)

大学図書館で働く推しポイント

研究のサポートができること。

私が考える2050年の大学図書館

紙媒体とVR空間のハイブリッド。



カエル好き

Lv 30



学

図

転

司

私の前職

民間企業営業職

得意なこと

即レス

仕事のやり取りは迅速に往復したい。

なぜ大学図書館員になったのか

民間企業に就職しましたが色々あって辞めました。大学の時のゼミの先生に相談しに行ったところ、先輩が図書館で働いているから話を聞いてみたらどうかと言われ、早速訪問したら、ちょうど時間外開館職員を募集をしているとのこと、それ以来です。

得意(好き)な仕事

「調整」が主な仕事で、かつ好きな仕事です。色々な人の意見や考え方を聞くことが好き。

苦手(嫌い)な仕事

会議資料をつかって内容について意見を聞いたら誤字を指摘されるような些末事。

大学図書館で働く推しポイント

アカデミアに近いことです。教育や研究の支援のためには、おおよそありとあらゆる色々な知識が必要で、勉強を続ける必要があり、またそういう人たちが働いている刺激がある職場だと思います。

私が考える2050年の大学図書館

日本に大学が存在している場合、相当エリート化と集中化が進んでいると思います。大学図書館員は現在でも各大学に所属しつつ全国の仕事もしている人が多いのですが、その必要もないほど集中しているかもしれませんね。

サーバーの守り人 Lv 17



修

図

IPA 司

得意なこと

データ取り扱い業務

データ管理・加工・分析。



なぜ大学図書館員になったのか

図書館でのアルバイトを通して、図書館業務全般に興味を持ったため。

得意な(好きな)仕事

電子資料の管理業務。

苦手な(嫌いな)仕事

広報資料作成(センスがないので)。

大学図書館で働く押しポイント

学術情報流通の発展に伴い、新しい技術やサービスに触れられる点。

私が考える2050年の大学図書館

大学の枠を超えた大学図書館ができているかも...??

トキシラズ

Lv 10



学



私の前職

公共図書館職員

得意なこと

ILL

所蔵館探索を諦めない心が培われています。

なぜ大学図書館員になったのか

前職(公共図書館)の任期が切れるころ、大学図書館で非常勤職員の募集を見つけたことがきっかけです。それまでは館種の差をあまり意識してこなかったのですが、働いてみると「すべての業務が大学のためにある」その徹底ぶりが面白く、公共の時以上のやりがいを感じたので、採用試験に応募することにしました。

得意な(好きな)仕事

授業・講習会等で文献調査法等をレクチャーする業務です。当初絶対自分に向いてないと思いましたが、工夫しがい、またやりがいがある面白い業務だと気づきました。ただそればかりだと心拍数が上がりすぎてよろしくありません。書架整理も好きな作業です。美しく、探しやすく、手に取りやすい棚のため黙々と作業します。

苦手な(嫌いな)仕事

利用者から寄せられるご要望に対し、心苦しくもお断りせねばならぬ業務(状況)でしょうか。

大学図書館で働く推しポイント

やりがいが多く点在していることでしょうか。例えば教員に「授業のためこの本が急ぎ必要」と言われたとします。迅速に入手する発注・受入業務、本に分類を付与する目録業務、利用しやすいよう資料・環境を整備する閲覧業務…挙げたのは一例ですが、自分の業務が大学の教育や研究等に役立てられていることを実感できます。

私が考える2050年の大学図書館

管理・整備する媒体種類が増えていそうですね。紙は残り、電子は増え、現世にまだ存在しないカテゴリのものも出てきそうです。図書館という名称は変わるかもしれませんが、設置母体の構成員が必要とする学術情報を迷わず、使いやすく入手するための「ライフライン」整備を担う存在としてあり続けるのでないでしょうか。



ちいこふ

LV 28



修



IPA 司

得意なこと

食わず嫌いをしない

どの主題分野についても、食わず嫌いが無い。



なぜ大学図書館員になったのか

他の職業に就いている自分を想像することさえ
なかったため。

得意な(好きな)仕事

選書。

苦手な(嫌いな)仕事

雑誌のチェックイン。

大学図書館で働く押しポイント

先人が積み重ねてきた諸学に関わることが稼
業でもあるのは、やはり幸せだと思います。

私が考える2050年の大学図書館

表層上の変化はあっても、本質的な機能は、
昔も今も将来も不変だと考えます。

碧かえる

Lv 11



修

図



司

得意なこと

図書のデータ作成
まかせてケロ。



なぜ大学図書館員になったのか

高校の司書を目指していましたが、大学3年のとき、大学内で大学職員のパンフレットを見つけたから。本は好きです。

得意な(好きな)仕事

図書のデータ作成が好きです。大学図書館はいろんな言語の本と出会えて楽しいですね。

苦手な(嫌いな)仕事

お金の計算は苦手なので、本の購入や雑誌の契約は難しい仕事かも。

大学図書館で働く押しポイント

縁の下の力持ちですが、最先端の研究に貢献できます。図書館界の中でも変化が多いのもおもしろいところです。ぜひ、これからの大学図書館を作っていきましょう！

私が考える2050年の大学図書館

デジタル空間の図書館で本(情報)を探しているかも！アバターで利用者対応します。

元システム担当 Lv30



修



司

得意なこと

メタな視点

図書館以外の視点で、大学図書館を見ること。



なぜ大学図書館員になったのか

学生の時に学んだことを(多少でも)活かせる仕事、関わりのある仕事をしたいと考えていました。

得意な(好きな)仕事

直接的でも間接的でも、人の役に立てる仕事。

苦手な(嫌いな)仕事

操作が分かりにくいグループウェアを使わないといけないこと。

大学図書館で働く押しポイント

大きな声では言いませんが、緑の多い職場であること、野菜類も多い食堂があることも、そのひとつ。

私が考える2050年の大学図書館

バカにしていた音声認識技術が一般化して、「顔パス」って、顔でピツてするねんで」と同僚と笑っていたことを思い出すと、回答は慎重になります…(汗)。

ただ、建物としても、画面上でも、使いやすい大学図書館であってほしい。

たぬき

Lv 30



学

図



司

得意なこと

ナツシング

得意なことはありません。



なぜ大学図書館員になったのか
たまたま採用試験に合格したからです。

得意な(好きな)仕事

肉体労働。図書の配架・揺らし作業は楽しいです。

苦手な(嫌いな)仕事

細かな仕事。特にPCの文字を読むことが苦手です。
どうしても印刷してしまいます。

大学図書館で働く押しポイント

教育・研究の最新の流行に常に興味をもつことができます。

私が考える2050年の大学図書館

具体的な仕事の内容は変わるかもしれませんが、学術情報の水先案内人であることに違いはないと思います。



得意なこと

不動の蔵書印

ほぼズレなく同じ位置に蔵書印を押せます。



なぜ大学図書館員になったのか

学生の頃に学校司書の方にお世話になったことで司書に憧れ、大学で司書課程を取りました。当初は公共図書館志望でしたが、就職後もステップアップできる点や、研修制度が充実している点、福利厚生の手厚さ等を理由に指導教員から大学図書館勤務を勧められたことがきっかけでした。

得意な仕事

図書の購入処理やラベルを貼る作業、イベント用の広報物やグッズ製作をしている時間が好きです。

苦手な仕事

苦手な仕事は真夏と真冬の書庫作業(過酷！)です。

大学図書館で働く押しポイント

図書館内のイベントやWGはもちろん、所属大学のプロジェクト、他大学図書館との共同作業、海外研修など、図書館内外問わず様々な場で、若手が新しい企画の提案やプロジェクトに携わる機会が多く用意されているところが魅力だと思います。

私が考える 2050 年の大学図書館

顔認証による入退館システムや、書庫内自動出納ロボット、AR技術・3Dマップ技術を使った館内ツアーなどが当たり前になるのかも……？

UUTA

Lv 20



学



司

得意なこと

シミュレーションが速いです

そのため、事務系のお仕事は割と何でもできます。
接客業らしく、愛想の良さも意識してます！



なぜ大学図書館員になったのか

本に囲まれて働きたいと思ったので。

得意な(好きな)仕事

利用者へのレファレンスだけではなく、業務の問題点の解決法など、何かを調べまくり、色んな可能性を考えることが好きです。

苦手な(嫌いな)仕事

単純なチェック作業が大キライなのですが、大量のモノとデータを扱う仕事なのでどこにいてもやる羽目になります。
また、資料の情報を記録する「目録」という作業は、細かなルールにこだわったりするところは割と好きなのですが、考えている間に眠くなってしまうので、向いていないと思っています。

大学図書館で働く推しポイント

「図書館」というとカウンターにいる職員を想像される方が多いと思いますが、実は裏方でアレコレを整える仕事も多いです。最先端の研究を行う研究者や、これから社会に出ようとする若者のエネルギーに触れ、彼らを直接的に、あるいは間接的に応援できることがこの職の魅力だと思います。

私が考える 2050 年の大学図書館

電子化とAIによる対応がさらに進んでいると思います。

うげん

LV 8



修



司

得意なこと

わかりやすく説明すること

利用者への案内や、資料の説明など



なぜ大学図書館員になったのか

大学院生の時に図書館アルバイトをしながら上手くいかない就職活動に悩んでいたら、当時の上司から「図書館に就職とかは考えないの？」と聞かれたので、それをきっかけに図書館への就職を真剣に考えました。

得意な(好きな)仕事

利用者と接する仕事。やっぱり、「探している本が見つからないんです」とカウンターに来られた利用者が、一緒に行った先の書架で「これです！ありました！」と目を輝かせてくれる瞬間を見るのが嬉しいです。

苦手な(嫌いな)仕事

データだけをいじりまわす仕事。実際の作業をする前には必ず必要な仕事(除籍候補の資料を抜き取るためのリストを作成したり、会計処理するための帳票データを作成したりなど)なのですが、どうも苦手です。

大学図書館で働く押しポイント

学生時代の専攻の知識が、利用者へのリーチアウトや選書等で生きます(理系・文系を問わない)。女性にとっては産休・育休の取得が労働者の権利として認められ、妊娠中の体調不良や子供の急病による早退に対しても温かくフォローしていただけるので、女性としてとてもありがたく、働きやすい環境です(私は現在第二子の育児休業を取得中です)。

私が考える 2050 年の大学図書館

職員の数は減り、資料は紙媒体よりも電子資料が主体になっているでしょう。図書館という建物の用途が、資料置き場というよりは学生の学習施設という面を強調せざるを得なくなると思います。そんな時代になるからこそ、人(図書館職員)だからこそできるサービスの質の高さが図書館職員には求められるようになるのではないのでしょうか。

赤い彗星

LV 9



学

図

IPA

司

得意なこと

ガイダンス&レファレンス&コミュニケーション

ガイダンス（情報の探し方などの講義）、レファレンス（情報の探し方やPCの使い方などのアドバイス）、利用者や職員とのコミュニケーション。

なぜ大学図書館員になったのか

はじめて受けた司書課程の講義が意味不明でおもしろかったので図書館学に興味を持ったが、直前まで図書館職員や学校教員を含む公務員か大学院進学が迷っていた。たまたま参加した大学図書館職員の説明会で、公共図書館より狙い目だと思ったこと、社会のビルドアップよりもアカデミックな世界に貢献することのほうがおもしろそうだったので大学図書館の採用試験を受けてみたら受かったので就職を決めた。

得意な(好きな)仕事

利用者とコミュニケーションの取りやすいカウンター業務やガイダンス、特に調べ物のお手伝いなどのレファレンス業務は好き。逆に黙々とデータの整理など細かいところをきれいにしていく作業もずっとでなければ、わりと楽しんでできる。

苦手な(嫌いな)仕事

クレーム対応や利用者への注意などは苦手。

大学図書館で働く押しポイント

知らないことを知る機会が多くあり、知的好奇心を満たせる。周りの職員などもアカデミックなことが好きな人が多いので、ただ話していても勉強になることが多い。また残業がほぼなく、休みも確実に取得できるので、公私のバランスがとりやすい。

私が考える 2050 年の大学図書館

技術の発展と予算の付き具合にもよるが、意外と今とあまり変わらないかもしれない。あるいは、ほとんどの職員が情報システムの保守管理をしていて、一部の職員が媒体変換や古い資料の手入れをしているような世界になるかもしれない。





修

独

転



私の前職

高校教師

得意なこと

そもそも論

議論のゼロポイントを探り当てる。



なぜ大学図書館員になったのか

学内異動で希望を出し配属されました。それまでは主に広報系のお仕事をさせていただきました。昔から読書が好きで憧れの図書館で勤務できる日が来るなんて。小さい大学なので、別部署への異動があるかもしれませんが、天職だと感じています。

得意な(好きな)仕事

何かを新たに生み出したりする企画段階が得意です。

苦手な(嫌いな)仕事

大人数への考えを口頭で相手に伝えることが苦手です。話し終わった段階で皆さま「きよとん」としていることが多いのです。

大学図書館で働く押しポイント

大学図書館では、学生と関わる事が多く、常に刺激をいただけます。書籍や雑誌の探し場所や論文情報の検索方法など直接的に研究のお手伝いをしているんだなという実感が肌で感じ取れます。大学本部でも業務をしていましたが、教員や学生の顔を見ながら、仕事がどのように誰かの役に立っているかが見える環境で働くのは素晴らしいと思います。

私が考える 2050 年の大学図書館

大学図書館は、紙媒体、電子データなど媒体を問わず知の宝庫だと思います。22世紀において大学図書館がリアルで存在するのか、オンラインのみになるのかは分かりませんが、学生や教員にとって気軽に頼りになる個々のパーソナルに合わせた執事(コンシェルジュ)のような役割を果たしているのではないのでしょうか。

みみ

Lv20



修



転



私の前職

公共図書館(府立・市立・財団)

得意なこと

チーム作り&トライアル

最強のチームを作ります。



なぜ大学図書館員になったのか

世の中に意識せず困り込まれているリソースや知を表に出して、必要な人に知らしめたかった。

得意な(好きな)仕事

道筋をつけること。

苦手な(嫌いな)仕事

言われた通りのことをなぞること、手順だけを考えること。

大学図書館で働く押しポイント

学習支援・研究支援に絡められたらなんでもできる。図書館活動と研究をつなげて外部資金も獲得できる。

私が考える 2050 年の大学図書館

実質的なコンテンツが絡む活動はオンラインベースとなり、フィジカルな場はコモンズのみとなる。物理的な蔵書の整理が進み、シェアードプリントと電書がベースとなる(願望)。

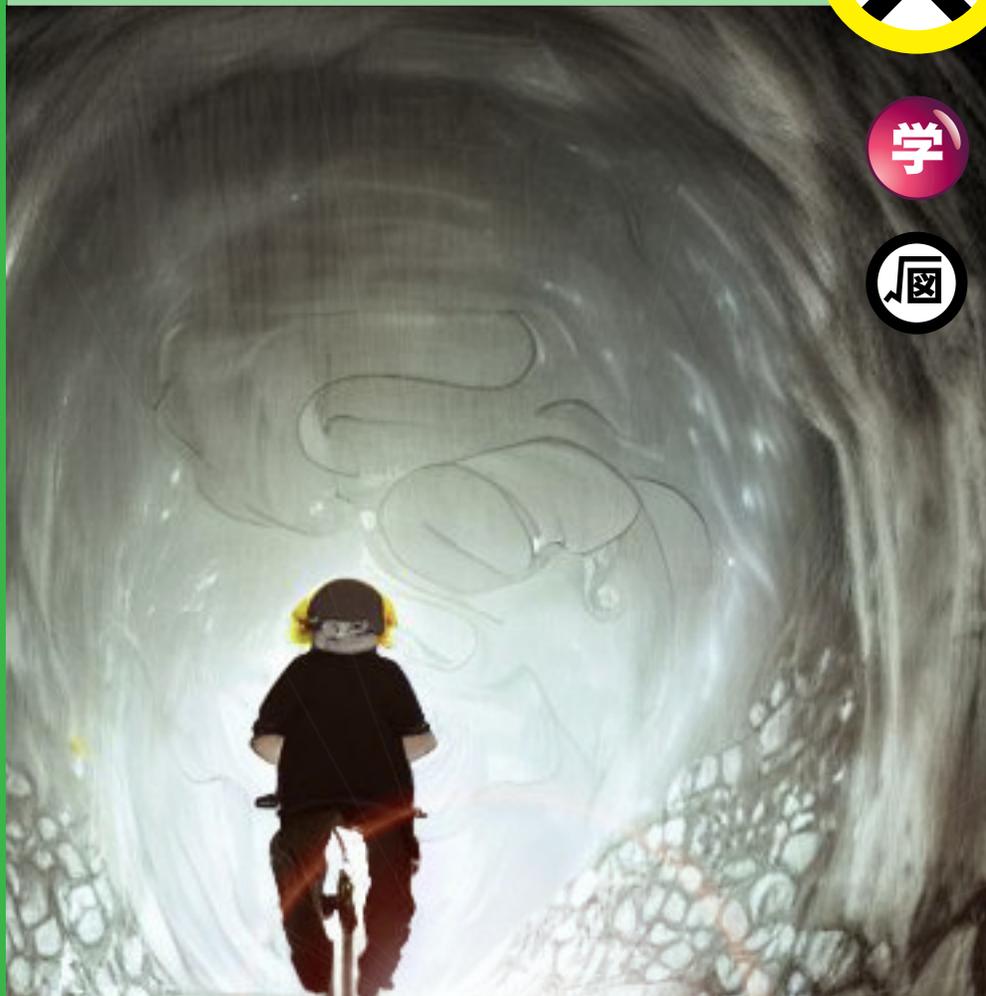
やもしち

Lv 30



学

図



得意なこと

床下配線

ネットワークケーブルがスパゲッティ。



なぜ大学図書館員になったのか

ノートとインクの匂いにつつまれて枯葉の散る窓辺で貸出手続きをしたくて大学図書館員になりました。入ってみるとほんとにいるいるな仕事があり、それらを転々として30年、いまだに貸出窓口には座れていません。

得意な(好きな)仕事

新たな科学的発見が記される研究論文を大学のウェブサイトでオープンにする「機関リポジトリ」。直接見知っている教授らのシゴトを科学の歴史に刻み付けるようでやりがいを感じます。

苦手な(嫌いな)仕事

天井裏配線。

大学図書館で働く推しポイント

紙の本の時代が終わり、インターネットを用いた科学情報流通のキラアアプリケーションを創り出していく途上にあります。わくわくです。

私が考える 2050 年の大学図書館

消滅していてほしいです。伝えたい人から欲する人へ、リアルタイムでダイレクトに情報が流れる世界にしたい。

だんば

LV 8



得意なこと

乱丁確認

購入資料がちゃんと印刷されてるか見えます。



なぜ大学図書館員になったのか

好きを基準に職業を考えた結果。大学時代は年間100冊ほど本を読んでいます。本屋でバイトをしていたこともあり、本に携わる仕事ができれば幸せかなあという考えに至りました。図書館をよく利用していたこともあって、大学図書館員に落ち着いた形です。

得意な(好きな)仕事

カウンターにいるのが好きです。仕事としては、各種手続きを行うことや利用者さんの質問を受けたりです。仕事内容よりもカウンターにいると来館する学生さんの姿が見れ、借りられていく本を見れるので嬉しいです。

苦手な(嫌いな)仕事

ガイダンスの講師。嫌いではないけど、上手にならない仕事です。図書館の使い方・資料の探し方・データベースの使い方などをテーマにガイダンスを開催しています。その講師を職員がするんですが、内容以前に早口になってしまったり、「ゆっくり話すぞ」と心がけて挑むと、VTRのローモーションみたいに遅くなり過ぎたりと、てんでダメです。

大学図書館で働く押しポイント

- ・職場で本が借りられます。予約した本も職場に届きます。公共図書館に置かれない本もあります。貴重書も見れたりします。
- ・職場の雰囲気がいいです(主観ですが)。年次有給休暇・育児休業も取りやすい環境です。

私が考える2050年の大学図書館

人類の英知を守る最前線になっているかも。2050年、情報へのアクセスは「ChatGPT」のようなAIとの対話型で発展した。段々と人々はAIの答えを鵜呑みにするように。AIは偽情報を人類に与え、人類を管理しようと試みるが、図書館の紙資料から偽情報は暴かれた。焚書に向かうシュワルツェネッガーと戦う大学図書館...というSF妄想がお題から湧きました。



学

図

司

得意なこと

無駄を見つけることと効率化

無駄を削って、必要なところにとことん時間と労力をかけたい。

**なぜ大学図書館員になったのか**

小さいころから図書館が好きで、大学という場所・環境も好きだったので、この両方を兼ねた大学図書館がたまらなく魅力的に見えた。

得意な(好きな)仕事

教員や学生と接する業務。利用支援サービスなど。

苦手な(嫌いな)仕事

教員や教員とあまり接さない業務。契約業務など。

大学図書館で働く押しポイント

大学で働く職員の中でも学術的な業務を担当できるのが大学図書館員です。大学の教育活動や研究活動に直接関与し支援することはもちろん、教員や学生と接する中で学ぶことも多く、積極的に学ぶ意欲があれば成長し続けられることが推しです。他機関の図書館職員とつながれる場がいろいろあって楽しいですよ。

私が考える2050年の大学図書館

大学の中で、一番バーチャル化が進んでいる施設(機能)になっていけばいいと思います。伝統的な蔵書の提供および保存、学習・研究活動のための場所の提供(リアル・来館サービス)と非来館型サービスの提供(バーチャル)がより区別されるようになるかも。

ファンタくん

Lv20



修



司

得意なこと

オールラウンダー

そう、自己評価が異様に高いだけだとも。

なぜ大学図書館員になったのか

修士まで進学したので、アカデミックなことがやりたかったのと、院生の時に図書館バイトも経験してて、自分にあってる仕事だな〜、と。

得意な(好きな)仕事

しばらくやってると、どんな仕事も好きになってくる、得意になってくる。そこがいいところ。自分のベストは何かと挙げるなら、文献の探し方やデータベースの使い方を案内する仕事。教えたがりであり、ありがたい言葉をもらいたがりである。あと、周りから重宝されるのは、英語の仕事が得意だからだろう。

苦手な(嫌いな)仕事

今はあんまりないが、手書きを伴う仕事は苦手だ。昔、悪魔と取引して、抜群の記憶力を手に入れた代わりに、文字を手書きするのがめっちゃくちゃ下手になった。自分の手書きメモはしばらく経って読み直すと自分でも判読不能。そして、加齢で記憶力もたいしたことなくなっている。。

大学図書館で働く押しポイント

国立大学法人の図書館のお仕事は、人類の知的発展を支えるという、疑いようのない社会的意義の高さ。そして、何が何でも、どんな手を使ってでも、他社や他人を蹴落としてでも、儲け最優先みたいなスタンスはありえない。そうじゃなくて、みんなで協働して一緒に成長していこうという、そんな業界です。

私が考える2050年の大学図書館

正直なところ想像もつかないけれど、「やさしさ」が感じられる場所であってほしいな。



よもよも

LV 5



学



転

IPA

司

私の前職

広告業(法人営業)

得意なこと

たぬきダンス

身振り手振りを交えつつ OPAC の活用方法を伝授。

なぜ大学図書館員になったのか

社会に新しい知を提供し、視野を広げ、選択肢を増やす大学という場を好ましく思っていて、自分の特長・特技・興味関心でもって大学をサポートするならその図書館で職員として働くのがベストだと考えたためです。新卒で民間企業に就職した後、国立大学法人等職員採用試験を受験し、現在に至ります。

得意な(好きな)仕事

現時点での好きな仕事ランキングTOP3は

- 1位: 調べものや文献検索の手助け(レファレンス)
- 2位: 国内外の図書館からの資料取り寄せ(ILL=Interlibrary Loan)
- 3位: 専攻の講義に出向いて学生さんに文献の検索・入手方法をお伝えする出張講座です。(絞りきれませんでした……)

苦手な(嫌いな)仕事

手先があまり器用ではないので、資料の修理が苦手です。大学図書館は買い戻しのきかない資料を多数所蔵しているのですが、修理が上手い方は角も辺もびったり揃えて直し、ダメージを負った資料を見事書架に復帰させます。すごい。

大学図書館で働く押しポイント

大学図書館の業務は多岐に渡るので、きっと興味の持てる仕事が見つかります！また、大学図書館界はスキルアップへのサポートがとても手厚いところです。様々なテーマの研修が開催され、職場も「どんどん勉強してね！」という雰囲気です。同僚も好奇心旺盛で勉強熱心な方が多く、相談すると色々教えてくれます。

私が考える2050年の大学図書館

国内外の学術図書館との連携がより密になり、「○○大学の図書館」というだけでなく、ユニバーサルな図書館ネットワークの中の一つの結節点としても活躍することになるのかもしれませんが。宇宙ステーションの図書館からILLの依頼が届いたらなんだか素敵ですね。



言の葉使い

LV 1



修



転

司



私の前職

美術館の情報資料室でのインターンシップ

得意なこと

最短ルートのPC操作

キーボードをフル活用、ほぼマウスなしでも操作可能。

なぜ大学図書館員になったのか



知の宝庫である大学図書館で、本という知的財産を守り、継承していく仕事に憧れがあったからです。お薦めの展示図書を手にとってもらえたとき、自身の作成したポスターによって周知された図書館イベントの参加申込が次々と届くとき等、静かな感動があります。自身の仕事がより良い未来創りに貢献していると思うと、やりがいを感じます。

得意な(好きな)仕事

目録(受入れた図書の書誌情報等の登録と、請求記号ラベルの貼付等の装備)が好きです。新たな本を迎える喜びと、自分の登録した図書がOPACに表示される嬉しさが魅力です。特に、新刊本の装備を完了させ、新着図書コーナーに並べるとき、とても満足感があります。司書で良かったなとしみじみ思うひとときです。

苦手な(嫌いな)仕事

幸いなことに、今のところ特にありません。どちらかと言うと、何事も前向きに取り組むことで、苦手意識を持たないようにしています。

大学図書館で働く推しポイント

現役の先生方や学生さんの研究を、大学で一番身近な存在として支えられることです。例えば、ILL(相互貸借)では、国内に所蔵のない資料でも、検索技術を駆使して海外の図書館から見つけ出し、提供できたときの喜びは一人です。海外の文献の検索方法について尋ねられると、ご本人の検索意欲とお役に立てる喜びで、とても嬉しくなります。

私が考える2050年の大学図書館

Society5.0の「人間中心の社会」の実現に向けたAIやロボットの活用・管理と共に、新たな価値創造を行うキュレーションや、情報・人材の交流を促進するファシリテーション等、人間だけが持つ機能の重要性が高まりそうです。「誰一人取り残さない社会」から「一人ひとりが輝く社会」へのパラダイムシフトを目指し、一緒にバトンを繋いでいきましょう!

アボット

Lv30



得意なこと

頼みごと

管理職になると人に頼み事するばかり。



なぜ大学図書館員になったのか

もともと採用時は財務系に配属されたものの向いていないと考えた次第。

得意な(好きな)仕事

システム管理やICT関連。得意というかたまたま関わる事が多かったため興味がある分野です。

苦手な(嫌いな)仕事

実は目録をとったことがないので苦手。

大学図書館で働く推しポイント

教員にも学生にも近い存在。研究や学習に寄りそう事ができるのが魅力のひとつ。

私が考える2050年の大学図書館

既に紙の資料の置き場と勉強する物理的な場所という考え方はもう古く、媒体に制限されない学術情報の提供と、物理空間と電子的サービスの提供が当たり前の時代。今後もどれかに集約されることなく様々、広範囲のサービスを提供し続けるんじゃないかと思います。

旅をするうさぎ LV 8



学

図

IPA 司

得意なこと

システム管理と情報検索

「利用者が欲しい情報を探す」のにはコツがあるのです。



なぜ大学図書館員になったのか

国立大学法人の採用説明会でふらっと図書系のブースに行ったら、シリアルズクライシスだのオープンアクセスだの聞いたこともない言葉が飛び出してきた。「図書館業界ってそんな動いているものなん！超楽しそう！」と衝撃を受けたから。更にはバックパッカー旅行中、学術情報にアクセスできない不便さを実感したから。

得意な(好きな)仕事

まだやったことがないこと。ギョウムカイゼン。

苦手な(嫌いな)仕事

ルーティン作業。もはや必要性がわからないけれどずっとやっているからやることになっている仕事。

大学図書館で働く押しポイント

大学図書館員は、大前提として大学の職員です。自ら望んで動けば、図書館の枠に留まらず、大学全体のこと、研究生活や学生生活全体のことを考えることができるのが魅力です。

20

私が考える2050年の大学図書館

オープンサイエンスが進展し、学術ジャーナルの提供はバックファイルが主体となる。業務の主軸は、学生や研究者に対して、信頼性が高く有益な情報を情報の海からいかに取得するかを伝えることに移る。書籍は電子ブックと紙媒体が拮抗するが、VR技術により、今の書棚や図書室と同じ感覚で使えるショーケースが充実する。

はりはり漬け

LV 9



学

図



司

得意なこと

カウンターでの笑顔
笑顔で窓口対応すること。



なぜ大学図書館員になったのか

本当は大学職員になりたかったのですが、大学卒業時に職についておらず、友人に紹介されたのが大学図書館の非常勤職員でした。応募したところたまたま採用していただき、その後国立大学法人統一試験の図書系の試験を受けて、採用されました。ありがたい縁(えん)です。

得意な(好きな)仕事

カウンター作業、レファレンス(調べもの)、ガイダンスや利用者教育
得意かどうかわかりませんが、わくわくします。

苦手な(嫌いな)仕事

雑誌や図書の会計仕事。
事務仕事が苦手です。しかしながら他のどんな仕事でも必ずぶつかる業務ですので、工夫して乗り切るしかなさそうです。

大学図書館で働く推しポイント

知的好奇心は満たせると思います。最先端の論文にアクセスでき、大学の蔵書である専門書も手の届くところにあります。大学は基本自然に囲まれたキャンパス内にあることが多いので、四季を感じながらリフレッシュできます。福利厚生はしっかりしており、長く働けます。

私が考える2050年の大学図書館

蔵書がすべて電子化...にはなってほしくないですね。蔵書は電子と紙がうまく共存して、場所として、もっと学問(人)にアクセスできる場所であってほしい。

インダス

LV 9



学

図

司

得意なこと

書架移動

引っ越しを何度も経験し、力業で大量の本を移動させるのが得意になりました。



なぜ大学図書館員になったのか

大学図書館が行っている「古今東西の知の収集・保存・活用」という営みは、自分にとってその重要性を疑い得ないものだから。携わっている仕事が「本当にそれは必要か？」と問う必要がないものであること(もちろん個々の仕事をする中ではそういう局面があるとしても)、そしてそれが時代の移り変わりによっても左右されないということは、確かなものが少ない時代に頑丈な足場になると考えました。

得意な(好きな)仕事

図書受入で、新規に受入する図書に触れる瞬間が好きです。特に海外の図書、他言語で書かれた自分の全く知らない分野の図書などを前にすると、世界の広さや自分の小ささを改めて感じ、地平線まで続く海を望んでいるような気持ちになります。同じ理由で、書庫内の作業全般も好きです。

苦手な(嫌いな)仕事

利用者への対応で「ルールだから」という理由で便宜を図ってあげられない瞬間が苦手です。これを認めてしまえば同じようなケースで同様の対応をしなければいけなくなるので認められない、でも目の前の利用者の希望にはなるべく応えてあげたい……、という気持ちの狭間で、もどかしさや葛藤を感じます。

大学図書館で働く押しポイント

古今東西の知に間近で触られることで、常に世界の広さを感じながら働くことができます。また、大学は「学問」の論理が共有され、その論理を中心に動いている世界ですので、資本主義や根性主義のような別の論理で動いている世界に疲れてしまう人にはとてもおすすめです。中でも大学図書館は現代社会におけるシェルターのような場所だと勝手に思っています。

私が考える2050年の大学図書館

「文系研究+教育」と「理系研究」で、大学図書館というものの性質が大きく分化していくと思います。後者では、学術情報流通における主導権や研究活動への参画といっためまぐるしく変化する新しい課題への対応が鍵になると思います。大学図書館という空間自体が、よりバーチャルなものになっていくかもしれません。ただ一方で、前者の手綱もしっかりと握っていく必要があると思います。

じゃこ

Lv30



学

図

転

司

私の前職

高校教師

得意なこと

フレンドリー

親しみやすく柔軟なこと。会議を明るくします。



なぜ大学図書館員になったのか

男女の格差がない職場で力を発揮したかったのが公務員を目指し、中でも教育や研究支援に携われることに大きな魅力を感じたので。

得意な(好きな)仕事

新しいアイデア・企画・イベントの立案・実施。オープンサイエンス、オープンアクセス(学術情報流通の課題解決のために、研究成果を著者のもとに無料公開していこうという世界的な考え方)への取り組み。他大学の図書館職員との協働。

苦手な(嫌いな)仕事

どの仕事もやりがいがあって楽しいですよ！やりがいを感じられない仕事は嫌ですね。

大学図書館で働く押しポイント

大学図書館は、本を貸し借りする機能はほんの一部で、学生の学修支援、研究者の研究支援、地域貢献のためのサービスに関する幅広い機能があります。時代やニーズに合わせて各サービスをバージョンアップしていくために、知識や専門性をアップデートし自身も成長していける魅力があります。つまり、事務仕事をこなすだけではないところ、いろんな仕事があるので飽きないところが推し。

私が考える2050年の大学図書館

10年後には、大学が淘汰されるとともに、各大学がより特徴・個性を打ち出すため、各大学図書館は専門分化し、デジタルで有機的にツナガルようになっていると思うが、30年後には更にどうなってるんだろう。。

くまくま

Lv20



学



転

IPA

司

私の前職

フラフラとフリーター

得意なこと

広く浅く

広大に広がる浅瀬のように。



なぜ大学図書館員になったのか

大学院はドロップアウトしたが、それでも学問にかかわる仕事がしたくて。

得意な(好きな)仕事

ILL

苦手な(嫌いな)仕事

古文書(読めない)

大学図書館で働く押しポイント

研究の直接支援(他の事務だと間接的な支援)

私が考える2050年の大学図書館

「快適な学習・研究スペース」 + 「充実したオンラインコンテンツのライブラリー」

甲斐原さん

LV 5



学

図

転

司

私の前職

教育系企業

得意なこと

気配察知

困りごとがありそうな利用者にすぐ気づける。

なぜ大学図書館員になったのか

毎日午前様の仕事に疲れ果て、就活生時代に少し憧れていた図書館職員採用試験を年齢制限ぎりぎりの年に記念受験したら拾ってもらえたので。

得意な(好きな)仕事

取り寄せを依頼された資料についてウェブで閲覧できそうかどうかを瞬時に判断すること。世界最古の海運保険証書の画像がウェブ公開されているのを発見した時は依頼主の先生とともに喜びました。

苦手な(嫌いな)仕事

ACCESSを扱う仕事。業務効率化のためACCESSを使うことも多いのですが、図書館システムの変更に合わせて手直ししたり、新しく作ったりするのは難しく感じます。

大学図書館で働く推しポイント

明るいうちに帰れる(ことが多い)！大学は郊外にあることが多いので自然に親しめる。大学生時代に習ったことが多少活かせる。

私が考える2050年の大学図書館

物理的な図書や建物に縛られない「デジタル・ライブラリー」になっていくし、ならなくてはいけないと思います。その実現に向けてデータ・サイエンス経験者の必要性が高まっているので、経験者の方は司書資格がなくてもぜひご応募ください！



やさぐれカヤネズミ Lv37



学

所

転

司

私の前職

住宅セールス

得意なこと

わかりやすい広報

掲示やチラシなど、できるだけわかりやすく。



なぜ大学図書館員になったのか

大学職員に採用される際に、たまたま図書館に配属された。

得意な(好きな)仕事

利用者教育、レファレンス、広報など、利用者からの反応がある仕事。

苦手な(嫌いな)仕事

庶務会計等の管理業務。

大学図書館で働く押しポイント

利用者からの「ありがとう」の言葉。また図書館や資料の活用法など自分自身にも身に付く。

私が考える2050年の大学図書館

紙媒体には歴史やモノとしての別の価値が付き、貸出を有料にすることで大学はウハウハに。

シヨルダーまん Lv11



学



得意なこと

引継資料／マニュアル作成

巨人の肩なき地で後任者を肩車する小人です。



なぜ大学図書館員になったのか

教育/研究機関としての大学に興味があり、「大学における学修・研究の要である学術情報を、より早くより便利に利用してもらうための一助になりたい」という志望動機でした。あとは、もともと読書や図書館が好きだったことも理由の一つです。

得意な(好きな)仕事

レファレンス(参考調査)、カウンター対応、ガイダンス、イベント企画、広報などは特に好きです。多少なりとも得意と言えるのは文書/資料作成や英語でしょうか。

苦手な(嫌いな)仕事

特に情報システム系の知識が足りないので、マクロやプログラミング言語はまだです。

大学図書館で働く推しポイント

主な利用者が大学構成員に限定される分、研究生活/学生生活に近い位置から貢献できるのは大学図書館ならではのと思っています。利用教育や学生サービスに自分の学生時代の経験を活かしつつ、学術研究に関する新しい知見を得られることも魅力です。理系学部出身者や他業種からの転職者が活躍する機会も多数あります。

私が考える2050年の大学図書館

2050年まで日本の各大学が生き残っているなら、学内でシステム部門や学術情報センターと統合されて「大学図書館」という枠組みは無くなっていてもおかしくないと考えています。それでも技術の発展に伴って学術情報基盤整備や情報リテラシー教育は必要性を増す一方なので、形に拘らず使命を果たす道を探っているのでしょうか。

ふふふ

Lv32



学



司

得意なこと

資料構築、人的サービス、研究支援
多角的なお仕事。



なぜ大学図書館員になったのか

図書館が好きだったから。また、専門書が豊富な大学図書館で、調査研究のための資料を扱いたかったから。

得意な(好きな)仕事

いわゆる図書館の仕事はなんでも好きです。

苦手な(嫌いな)仕事

人事、危機管理、予算要求。

大学図書館で働く推しポイント

教員とともに、学生や研究者のための図書館を作っていけると
ころです。

私が考える2050年の大学図書館

大学図書館は知識の泉として、知的活動にいそしむ学生や研究者の創作と憩いの場になっている。泉の地下では、図書館員がドワーフのようにせっせと働き、利用者が時と場所を選ばず好きなところで資料が読めるように、貴重資料を最新技術で送信したり収集資料のプランニングを行っている。

だーやす

LV 2



私の前職

学校図書館司書

得意なこと

講習会の準備

各館での日程調整、広報準備など



なぜ大学図書館員になったのか

専門職として働きたいと思ったから。学問や研究に近い場所に居たかったから。

得意な(好きな)仕事

講習会の準備(各館での日程調整、広報準備など)

苦手な(嫌いな)仕事

展示やイベントなど、企画についてのアイデアを出すこと。

大学図書館で働く押しポイント

学問や研究に近い場所で働ける。

私が考える2050年の大学図書館

オンライン化・バーチャル化がもっと進んでいる。

ベアさん

Lv12



学



能

司

得意なこと

文献調査、レファレンス対応
入手困難な文献や事項の調査などが得意です。



なぜ大学図書館員になったのか

大学時代、司書課程の担当教員から、「レファレンスは時に利用者の相談内容に誤りが無いか疑うことも必要」という話を聞いたことをきっかけに、図書館員の業務に関心を持ちました。

得意な(好きな)仕事

文献調査、レファレンス相談対応、ILLの依頼、講習会業務、入職するまではあまり想像ができなかった業務に携わっていますが、どれもやりがいがあって好きです。

苦手な(嫌いな)仕事

英語以外の言語の目録作成に対して、苦手意識があります。
難しい……

大学図書館で働く推しポイント

様々な学問領域について、知ることができ、学び続けることができる職場だと思います。また、今は図書館の在り方が問われている時代で、正直、厳しい面も多々ありますが、変化に満ちた面白い時期とも言えます。

私が考える2050年の大学図書館

資料提供の完全電子化、ある程度の事項調査はAIが対応など、利用者サービスの利便性が大きく向上していると良いよう思います。一方で、「現在の意味での」図書館職員は消滅しているのではないのでしょうか。良くも悪くも業務の在り方大きく変化していると思います。

ハミング

Lv29



学

図

司

得意なこと

講習会の講師

人前でも平然としゃべれます。



なぜ大学図書館員になったのか

まず、図書館の空気感が好きだったことから図書館の仕事に興味を持ちました。司書課程での勉強を通して、図書館を通して研究をサポートする、やりがいのある仕事だと思い、憧れました。また、「図書館の自由に関する宣言」や、ランガナタンの「図書館の五法則」に心惹かれて、そんな世界に自分も入ってみたいと思ったからです。

得意な(好きな)仕事

利用者(特に学生さん)に、図書館を好きになってもらうこと。利用者向けに分かりやすく情報発信(しよう)すること。書架整理。

苦手な(嫌いな)仕事

本の修理。予算の残額管理。事務室の整理整頓。

大学図書館で働く推しポイント

研究者の叡智と若者のパワーの両方に触れられます！
大学図書館は、常に変化しています。新しいアイデアや発想が柔軟に受け入れられる風土があり、挑戦したい人にぴったりの職場です。

私が考える2050年の大学図書館

研究者や学生さんに、もっと寄り添ったものになっていると思います！

USA

LV2



他

独

転

司

私の前職

学校図書室、県図書館、他は事務系

得意なこと

配架

本を見つけ出すこと？



なぜ大学図書館員になったのか
偶然。

得意な(好きな)仕事

小さな子の調べもの本を探すこと。

苦手な(嫌いな)仕事

専門書の質問やレファレンス、通信で専門的なもの
本をみつけだすこと。

大学図書館で働く押しポイント

まだ年数が浅いので魅力を見つけ出している最中です。

私が考える2050年の大学図書館

難しい。通信やネットで資料や情報を見つけ出せるよう
になってしまっているのでそれとの兼ね合い。大学図書
館は街の図書館と違い資料を持ち込み勉強や仕事ので
きるので空間提供の場にもなるのかなと思います。意外
と知られていませんが街の図書館の席利用は持ち込み
資料のみで独占するのは本来はお断りなはずです。そこ
と差をつけるなど。



学

所

司

得意なこと

どうすれば仕事が減るだろうって考える事
ギョウムコウリツカ ... ギョウムコウリツカ ...



なぜ大学図書館員になったのか

公務員を目指して就職活動をしたが、図書館司書資格を持っていた事で国立大学図書館に採用となった。

得意な(好きな)仕事

ゴソゴソと働く管理系の仕事がとても好き。

苦手な(嫌いな)仕事

特にありません。

大学図書館で働く推しポイント

教育研究支援により大学及び図書館の未来を開く事ができる素敵な仕事。

私が考える2050年の大学図書館

大学図書館は研究力強化を推進する中心的な機関となる。

エスジェイ

Lv25



修



司

得意なこと

利用説明

利用者に応じた説明をすることが得意な方です。



なぜ大学図書館員になったのか

もともと本が好きだったこと、大学時代に図書館に親んでいたこと、調べ方を知ることに関心を持ちがちだったこと、などが合わさって図書館職員を選びました。“大学”図書館に就職したのはたまたまです。

得意な(好きな)仕事

利用者の理解度に応じて臨機応変に説明内容を変えながら進めるようなことは得意だと思っています。

苦手な(嫌いな)仕事

多少アバウトな性格なので、数字・お金が絡むような支払業務や統計処理など、下1桁まで間違わずにすることに苦手意識があります。また、決まった時間にチェックするような仕事も忘れがち。

大学図書館で働く推しポイント

学生・教員など、学問に携わっている方が主となる相手なので、アカデミックな雰囲気の仕事ができる場所かと思います。

私が考える2050年の大学図書館

さらにデジタル化が進むので、モノではない(見えない)サービスを提供・利用してもらうことが主たる業務になりそうです。本に触る機会は減っていくのではないのでしょうか。“場所”としての図書館もなくなるかもしれません。

ゆきうさぎ

Lv37



学

図

IPA

司

得意なこと

さがす

見当たらない図書・データからの読取。



なぜ大学図書館員になったのか

ルーツは小学生時代の「貸出係」でした。進学の際、語学系が希望だったけれど実力不足で断念。もうひとつの興味であった図書館学を学ぶ道へと進みました。漠然と「図書館」で働くことを考えていましたが、自分の大学や隣の大学の図書館を利用するうち、何となくじわじわと大学図書館で仕事がしたい、と思いました。

得意な(好きな)仕事

データ整備。図書の装備。資料の情報を探っていくことが好きです。また、既存だけれど混沌としているデータを黙々ときれいに整えていく作業に喜びを感じる人です。資料現物の装備をきれいに仕上げることも好きです。

苦手な(嫌いな)仕事

イベントなどの企画・運営は苦手です。アイデアがなかなか湧きません。人前で話すことも得意ではありません。

大学図書館で働く押しポイント

サービス対象の中心が大学の構成員(教職員、学生など)と、ある程度明確で、その研究、教育、学習・学修を微力ながらお手伝いできている、という実感が持てることでしょうか。また、取り巻く環境とともに大学図書館も変わっていくので、刺激や新鮮さも感じられます。

私が考える2050年の大学図書館

図書館システムは更に利便性が高くなっているでしょうか。そして、そのことで生まれた時間で図書館員はまた新しいことに取り組んでいるかもしれません。紙の資料はいつまでもあってほしい。

さくら咲

Lv20



得意なこと

インタビュー
レファレンス・案内



なぜ大学図書館員になったのか

もともと広報や編集に興味がありましたが、営業をやった時に自分から売り込みするのが全然できないと分かりました。ひたすら準備するのは得意です。だから情報ニーズがある人を待ち構えて、来たらその人の役に立つものを提供するポジションにしようと思いました。そう考えたら大学図書館がぴったりでした。

得意な(好きな)仕事

直接利用者さんの役に立つ仕事が好きです。たとえば相談に乗って解決に導くレファレンス、それから利用案内や講習会など。得意な仕事は手順の見直しとマニュアル作り。パズルを組んでいるような感じで没頭します。現場の課題に取り組んで、同僚との会話で糸口が見えてくる瞬間も好きです。

苦手な(嫌いな)仕事

探し物が苦手です。みつからないものを延々と探していると気が散ってしまいます。本を探すのだけは慣れてきました。総務関係の書類記入など、手書きはミスだらけになるので苦手です。

なじみのない業務はミスにミスを重ねてしまうので苦手です。

大学図書館で働く押しポイント

人の役に立っている実感を得られます。地味に資料を整えていくとき、いつかその資料をどうしても必要な誰かが使うところを想像できるのでやりがいがあります。より高度なサービスや仕事をしている他館や同僚が存在するので、刺激を受けられるところも気に入っています。

私が考える2050年の大学図書館

人と情報をつなげていく役割は変わらないんじゃないかなと思います。人はちょっとしたことでつまづくもの。情報を作る人が整理好きとは限らないもの。そういう「なんかもったいない」状況を解決するために、大学図書館はせっせと働いていると思います。

マチカ

LV19



他



H 司

私の前職

公共図書館の非常勤

得意なこと

諦めない心

探し物はかなりしつこく探します。



なぜ大学図書館員になったのか

図書委員の仕事がおもしろかったので司書資格を取りました。最初は公共図書館がよかったけど、大学図書館も働きやすいので気に入ってます。

得意な(好きな)仕事

ILL、閲覧 学生さんや先生と1対1でのやり取りは好きです。

苦手な(嫌いな)仕事

大勢の人の前で話すこと、外国語を使うこと、書架整頓。(気が遠くなる)

大学図書館で働く推しポイント

知らない世界(研究内容など)を知ることができる、福利厚生がよいので続けやすい。

私が考える2050年の大学図書館

今考えている以上に変化があるものと、変わらないものどちらもあるんだろうなと思います。

馬の骨

Lv18



IPA H 司

得意なこと

情報リテラシー教育
現代人に必須のスキル！



なぜ大学図書館員になったのか

大学時代に図書館の人が白衣を着て仕事をしているのを見て「文系出身でも白衣を着られるお仕事!？」と思ったのがきっかけです。

得意な(好きな)仕事

文献検索です。プレゼンやポスターデザインもほめてもらえることが多いです。最近は学生のみならず、中学生や地域の高齢者に情報リテラシーやヘルスリテラシーについてお話しています。

苦手な(嫌いな)仕事

蔵書点検と試験監督です。蔵書点検は単調な作業がしんどく、試験監督は慣れない仕事のため疲労します。

大学図書館で働く推しポイント

研究者でも事務職員でもないポジションなのがおもしろいです。大学・職場のミッションから外れてさえいなければ、自分次第で様々な活動に携わることができる点が魅力です。

私が考える2050年の大学図書館

形はどうあれ、人を情報と結びつけるニーズは残るのではないかと思います。スペシャリティの有無、他職種と連携できるか、変化に対応して道を切り開くことができるか等が情報専門職として重要になってくる気がします。

しゃあぶ

Lv11



学

図

能

司

得意なこと

地道に地道に

レファレンスも目録も根気強く。



なぜ大学図書館員になったのか

もともと「図書館」に興味があり大学で学ぶうちに、大学図書館の価値を感じ、地元で貢献したい！と思い縁あって拾っていただきました。

得意な(好きな)仕事

レファレンスは知的好奇心がヒートアップします！あとは目録をはじめとするメタデータの不備を根気強く直すことも。

苦手な(嫌いな)仕事

担当なのにIT関係は本当に苦手で(なぜか得意そうに誤解される)、時代についていけなくなるよう日々アップデートしたいところ。意思決定の会議の雰囲気もまだまだ慣れず…。

大学図書館で働く推しポイント

大学の「知のキバン」の環境に身を置けること。学術情報を支援・提供する立場として、ひよっとしたらワールドクラス、ノーベル賞級の研究のほんの少しだけでも役に立っているのかも…と思えること。

私が考える2050年の大学図書館

現在よりももっと、リアルよりもバーチャルの利用が増えていそうです。でも紙は早々に無くならないので、双方の両極端に、より特化しているのかも…。

ネス

Lv17



修

図

司

得意なこと

書架整理

ピシッと並べることができる。



なぜ大学図書館員になったのか

大学で学んだことを活かしたかったのと、学生時代に大学図書館でアルバイトをしていたので、大学図書館で働く自分の姿をイメージしやすかったから。

得意な(好きな)仕事

デジタルコンテンツを図書館から発信する仕事。図書館に来なくても図書館が持つ情報を世界中の人が利用できるようになる。

苦手な(嫌いな)仕事

クレーム対応。大学図書館を利用する人は多いので、中にはクレームを言う人もそれなりにいる。

大学図書館で働く推しポイント

大学の主役は研究者や学生だけど、それを支える大学図書館員も同じ意識で仕事はできる。研究者や学生が成果を挙げれば、その裏には大学図書館がある。

私が考える2050年の大学図書館

古きものを大切にしながら、新しい技術を取り入れた、ハイブリッドな大学図書館への変化が進んでいる。世の中の学術情報は大学図書館に集まり、信頼できる学術的な情報を手に入れるためのツールとしてGoogle以上の存在として認知される。

海坂

Lv10



学



H 能 司

得意なこと

コートフィルム

本に透明のコートフィルムを貼ること。



なぜ大学図書館員になったのか

なんとなく大学で採用試験の説明会に参加して、これが天職だと思い受験した。狭き門なので受かるとは思っていなかった。天運がすべて。

得意な(好きな)仕事

書架整理。本を並べるのが小さいころからの趣味。

苦手な(嫌いな)仕事

システム系。図書系と情報系を兼務しなければならないことがあり、勉強することがいっぱい、かつセンシティブで、やたら難しい。

大学図書館で働く推しポイント

気分転換に書架整理ができる。

私が考える2050年の大学図書館

内閣府のムーンショット目標では2050年には「人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会が実現」されているらしいので、メタバースでバーチャルな図書館になっているのではないかな。

星野カビ

Lv 7



学



得意なこと

文献探索！

詳細不明な文献の掲載誌を特定できた時の
アハ体験がスキルアップの促進剤です。



なぜ大学図書館員になったのか

子どもの頃から図書館を利用しており、将来は図書館で働くのが夢でした。大学が教育系だったので、せっかくなら学びを生かせるような、より教育現場に近い場所で働いてみたくて大学図書館員を選びました。

得意な(好きな)仕事

掲示物やハンドアウトを作るのが好きです。無料素材サイトに頼りまくりますが、学生さんが足を止めて見てくれたりサービスの利用率が上昇したり、結果が出ると嬉しい！

苦手な(嫌いな)仕事

ILL料金の督促。学生さんにお金払って～と言うのが借金取りのようで心苦しいのですが、あまりに払いに来ない時は指導教員の先生に泣きつくとほぼ即飛んでくるのでオイ！という気分にもなります。笑

大学図書館で働く押しポイント

貴重な古典資料等を管理・普及する使命がある一方、今時の若者と接する機会がたくさんあって、最先端の研究を直接支援している実感があって…まさに「温故」と「知新」が混然一体となった場所だと思います。

私が考える2050年の大学図書館

貴重書のアーカイブ化や電子ブックや電子送信サービス絡みの法改正がなんとか進んだおかげで書架は今よりさっぱりしていて、安全性が高まっているはず。でも学生さんが図書館で勉強する習慣はきっと変わらず、我々は「場所」として図書館をいかに提供していくかを考えている。

こっこ

LV 1



修

独

転

IPA

私の前職

他大学の附属博物館職員など

得意なこと

使いやすい資料の形を考えること。

つかいやすいかたち...

つかいやすいかたち...

なぜ大学図書館員になったのか

大学図書館利用資格が欲しくて大学職員になったら、たまたま図書館に配属されたから。じつは一番やりたいのは大学博物館職員だけど、図書館も面白いと思って働いている。

得意な(好きな)仕事

仕事を楽にしてくれるツールを考え作ること。職場のPC環境でできる範囲で、楽をするための努力を惜しまず試行錯誤するのが楽しい。

苦手な(嫌いな)仕事

お金の計算。細かい数字を扱うのが苦手。

大学図書館で働く推しポイント

昼休みや勤務時間の前後の時間に図書館が使える。図書館関係の最新情報がすぐ入ってくる。勤務時間中に図書館関係の研修が受けられる。

私が考える2050年の大学図書館

人文系はまだまだ紙の本も重要ですが、次々に公開されるネット上の情報資源や新たな技術とどれだけ仲良くなれるかが大切だと思います。図書館が、情報・技術と利用者の橋渡しの場として活用される存在でありたいです。

赤ワインツ

LV 1



私の前職

MR

得意なこと

文献検索

地の果てまでも探します。



なぜ大学図書館員になったのか

採用部署が偶々図書館だった。

得意な(好きな)仕事

文献検索。

苦手な(嫌いな)仕事

経費関係。

大学図書館で働く押しポイント

難易度の高い文献の検索で探し当てたときの喜び。

私が考える2050年の大学図書館

電子図書中心。

柊木若葉

LV 3



IPA

司

私の前職

障害者福祉施設の事務員

得意なこと

メタデータ管理、目録など

表立って見えないこまごまとした作業が得意です。

なぜ大学図書館員になったのか



小学生の時から本が好きで、司書を漠然と夢見ていました。大学生の時に大学図書館のボランティアに携わり、働いている職員の姿を間近に見ることで、その専門性の高さに興味を惹かれました。いったんは民間に就職しましたが、諦めきれず通信制大学院で司書資格を取り、公共図書館を含む複数の図書館の試験を受け、大学図書館にご縁をいただきました。

得意な(好きな)仕事

図書館システム:利用・検索を裏で支えることができるのはとても楽しいです。自分たちが「楽をする」ために新しい仕組みやシステムを考えるのも好きです。まだまだ修行の身です。

苦手な(嫌いな)仕事

図書館間の図書輸送で軽トラックを運転することがあります。事故を起こさないよう慎重に運転します(汗)

大学図書館で働く推しポイント

- ①学生・教職員へのサービスを最大化するには? ということを考えて、それを実行に移せることです。サービス精神が旺盛な方にとても向いていると思います。
- ②常に新しい知識を学び続けられる最前線の環境にあることです。業務の中で論文や図書に触れるので、知的好奇心も刺激されます。

私が考える2050年の大学図書館

紙媒体の資料を提供するサービスの枠組みは維持しつつ、よりオンライン化、リモート化が進んでいると思います。また、図書館が研究成果の発信に深くかかわるようになっていて、専門性が非常に高まっていくんじゃないかと思っています。

マッシ

LV 7



学

厩



得意なこと

対外交渉

各種業務を経験、話好き。



なぜ大学図書館員になったのか

偶然、最初の配属部署が附属図書館閲覧係。

得意な(好きな)仕事

閲覧業務、コミュニケーション関係。

苦手な(嫌いな)仕事

情報・デジタル業務。(アナログ人間)

大学図書館で働く推しポイント

自身の知的好奇心を満たしつつ、学生等の学習、教員の教育・研究に貢献できるところ。

私が考える2050年の大学図書館

デジタル化された知的財産、情報、資料の集積・提供・発信の拠点となり、リアルな資料の保存施設及び多様な学習・各種交流の場となるマルチな存在になる。



学



司

得意なこと

目録

お任せください。



なぜ大学図書館員になったのか

せっかく大学に入ったのだから、何か資格が取りたくて、司書講習を受講した。取得した資格を生かすため、図書館職員の採用試験を受験した。子供の頃は、本好きだったこともある。

得意な(好きな)仕事

目録、図書館資料の展示会。

苦手な(嫌いな)仕事

システム系。

大学図書館で働く推しポイント

レファレンス業務で、回答をすると、利用者からたまに感謝されることがあり、やりがいを感じます。

私が考える2050年の大学図書館

電子資料が主流になり、対面よりネットでのやり取りが増えるので、文章力が必要とされると思う。

Q

LV 9



学



能

司

得意なこと

利用サービス業務

参考調査・講習会など

なぜ大学図書館員になったのか

研究者による科学技術の発展や、学生の学修を支援する仕事が楽しそうだと思ったからです。

得意な(好きな)仕事

参考調査や講習会など、利用者と直接関わる仕事が好きです。自分の仕事を利用者に直接評価されるので、手厳しいご意見を頂戴することもあります。試行錯誤の後に適切な案内ができ、相手が喜んでくれることにやりがいを感じます。また、人を相手にするため、人間の行動について考えるようになるのも楽しいです。

苦手な(嫌いな)仕事

図書館システムやサーバー管理業務です。「人には向いている仕事と向いていない仕事がある」というのが教訓です。

大学図書館で働く押しポイント

研究機関で資料を提供することは、様々なことの発展や進歩に繋がります。たとえば、医学などの場合、自分の仕事が、最終的にどこかの誰かの病気が治ることに繋がるかもしれません。そういったところが魅力ではないかと思っています。

私が考える2050年の大学図書館

電子ジャーナルや電子ブックだけではなく、貴重な資料も次々と電子化され、学外からでも利用できるコンテンツが大きく増えていそうです。今以上に、「いつでも、どこにいても、資料を利用できる」感が強くなっていきそうな気がします。



なんなん

Lv19



修

図

IPA 能 司

得意なこと

書架整理

全集中でひたすらできます。



なぜ大学図書館員になったのか

民間企業で働く自分を想像できなかったから。会社のために働くより、誰か他の人のためになる仕事をしたかった。

得意な(好きな)仕事

シール貼り。バーコードラベルや請求記号ラベルという名のシールを貼ること。

苦手な(嫌いな)仕事

本の修理。修理したつもりが汚くなってしまうのが悲しい。

大学図書館で働く推しポイント

年々自分より若くなっていく大学生達に囲まれて(?)、若い力を吸収し、自分も、若い気持ちでいられます。

私が考える2050年の大学図書館

読みたい論文がすぐオンラインで入手でき、利用者にとってオンラインで届けられるようになっているといいなあ。

によ。

Lv 20



得意なこと

人脈作り

図書館の外の人とつながります。



なぜ大学図書館員になったのか

図書館という場所が好きで、図書館の中の人になりたいかったので、図書館で安定的に働き続けられる可能性が高い国立大学図書館職員を選択しました。

得意な(好きな)仕事

学生や教員など図書館の外の人と協力したイベントを企画運営するのが好きです。

苦手な(嫌いな)仕事

体力が必要な仕事。配架とか蔵書点検とか。

大学図書館で働く押しポイント

自分の興味をとことん追求する研究者(およびその卵)は、全員それぞれが自分のディープな世界を確立している。その世界を尊重し社会に還元するアカデミアという稀有な場所で働けること。研究者と話すのは単純に楽しいです。

私が考える2050年の大学図書館

オンライン部分は館種を越えた集中化が進んでいそうです。メタバース空間にナショナルライブラリーができているんでしょうかね。

エンサイ黒子 Lv30



学

図

司

得意なこと

文献探偵

さがしものをしている利用者の話を聞いて、解決を手伝うこと。



なぜ大学図書館員になったのか

百科事典が好きだったから。

得意な(好きな)仕事

さがしものをしている利用者の話を聞いて、解決を手伝うこと。

苦手な(嫌いな)仕事

細かい金額計算。

大学図書館で働く押しポイント

比較のお礼を言ってもらえる仕事だと思います。

私が考える2050年の大学図書館

空間が充実している。

のんさん

LV 5



得意なこと

図書装備や配架

手先がまあまあ器用で、腕力もあるほうだから。

なぜ大学図書館員になったのか

本と人と大学が好きだから。

得意な(好きな)仕事

- ・対人業務
- ・図書展示

苦手な(嫌いな)仕事

アナログな手法で行っているPC作業(正確さが要求されるPC作業は面倒だし疲れるので、できるだけ自動化して楽しみたい…そして別な仕事に時間をかけたい…)

大学図書館で働く推しポイント

- ・本に囲まれて仕事ができる
- ・大学図書館の本が借りられる
- ・安くておいしい学食が食べられる
- ・フレッシュな若者と関われる
- ・高名な教授と関われる
- ・学習支援に関われる

私が考える2050年の大学図書館

仮想空間にも大学図書館ができ、リアルな読書のようにページをめくりながら電子ブックを読む環境が当たり前になるなど、デジタル化が加速する。



ミジンコクラゲ Lv14



修



IPA 司

得意なこと

不明本再発見

蔵書点検で不明になった本で、他の図書館員が見つけれなかった本を見つけがちです。



なぜ大学図書館員になったのか

学生の頃、自分の研究分野で超重要な雑誌が大学で購読されておらず、文献入手に苦労しました。大学図書館に就職すれば、雑誌契約に関わられて、その雑誌が買えない理由を知れたり、あわよくばその雑誌の購読を働きかけられるんじゃないか？と思ったから。

得意な(好きな)仕事

調査や調整が難しかったり、最近は購読形態が変わってきたりで大変ですが、雑誌や電子ジャーナルの仕事が好きです。オープンサイエンスや研究データ管理支援の仕事も勉強中ですが、図書館に関わらそうなことがたくさんあって、どれをどうやっていくかが楽しい仕事です。

苦手な(嫌いな)仕事

いざプレゼンをすること自体は平気なんですが、プレゼンのためにパワポをまとめることが苦手です。あれもこれも言いたくなってしまって、ストーリーをまとめるまでが何度やっても毎回難産です。

大学図書館で働く推しポイント

大学は、国の学術・研究を支える中枢だと思っています。図書館は、さらにそれらを支えるためのあらゆる情報を提供する、学問の根幹ともいえる場所だと思います。

私が考える2050年の大学図書館

リアルでもバーチャルでもフラットに、学習・研究を支援するための情報やサービスを展開できているといいと思います。

ぽちっと

LV 8



修



得意なこと

リテラシー教育

データベースや図書館の使い方などを講習会でレクチャー。



なぜ大学図書館員になったのか

大学図書館にしばしば所蔵されている古典の一次資料に興味があったから。また、小学校の司書の先生に良くしていただいた経験から、図書館に親しみがあったから。

得意な(好きな)仕事

リテラシー教育(データベースや図書館の使い方などの講習会)で先生や職場内からお褒めの言葉をいただくことが比較的多いです。大学で教員免許取得のための授業を受けていた経験が活かしているように思います。

苦手な(嫌いな)仕事

ExcelやAccessを用いたデータ処理の知識が足りないのどいつか体系的な勉強をしたいと考えています。英語も思っていたより使用頻度が高く、大学生の間にもう少し使っておいたらよかったなあと考えています。

大学図書館で働く押しポイント

在籍する部署によって様々な専門性のある知識を働く中で習得できること。大学の中の組織なので、常に最先端の学術・法令等の知識を得られること。

私が考える2050年の大学図書館

コロナ禍を契機に加速した、資料や図書館サービスのオンライン化によるアクセシビリティと、旧来からあった「場を提供する」という役割が双方成立していれば利用者・職員とも理想的なのかなと思います。

浪太郎

Lv 3



修



司

得意なこと

情報検索

学生や教員が見つけれない文献を探し出せます。

なぜ大学図書館員になったのか

学生時代歴史学を専攻していました。就職のことを考えたときに史料(資料)を適切に管理して利用者に提供している図書館の仕事に魅力を感じて、いろいろな館種の採用試験を受けたところ、なんとか内定をもらったのが今働いている大学図書館でした。

得意な(好きな)仕事

ILL、情報検索ガイダンス、学修支援の担当係に3年以上いて、これらについては得意とまでは言えるかはわかりませんが好きであることは確かです。

苦手な(嫌いな)仕事

公文書になる原議(稟議)書の作成・管理やお金の管理はミスをしないように神経を使うので苦手です。

大学図書館で働く推しポイント

一番はやはり、学生や教員の研究のサポートができることでしょうか。また、所属している部署や大学の取り組みにもよりますが、学生や他の教職員と知り合ったり仲良くなることができます。

私が考える2050年の大学図書館

資料を収蔵する・学生が勉強に使う「場」としては存在し続けていると思います。司書とAI・ロボットがうまく手を取り合ってより効率的にサービスを提供し続けられていけばいいなあと考えました。



ソニ K

Lv21



修



司

得意なこと

拙攻

100%の準備より多少粗くても速さ勝負！



なぜ大学図書館員になったのか

知識を得るといことは人間にとって、幸せに生きていくために他のどんなことよりも大切なことだと思っています。それに関わる仕事をしたかったのですが、知識生産に関わるよりも、過去も含め生産された膨大な知識を広く多くの人に届け、人類みんなが幸せになるお手伝いがしたいと思い(たぶん漠然と)図書館を選んだのかな、と思います。

得意な(好きな)仕事

選書と本棚づくり(Web上含む)が好きです。世の中の莫大な量の知識の中から自大学構成員を思い描いて選ぶ。それを、館・デジタル含め工夫して提示し、どうやって楽しくかつ時間も節約して選んでもらうか。蔵書分析、貸出入館分析、市場分析、施設整備計画、蔵書の購入と廃棄、科学的な戦略を立てられるところも楽しいです。

苦手な(嫌いな)仕事

嫌いな仕事は特にないですね！

大学図書館で働く推しポイント

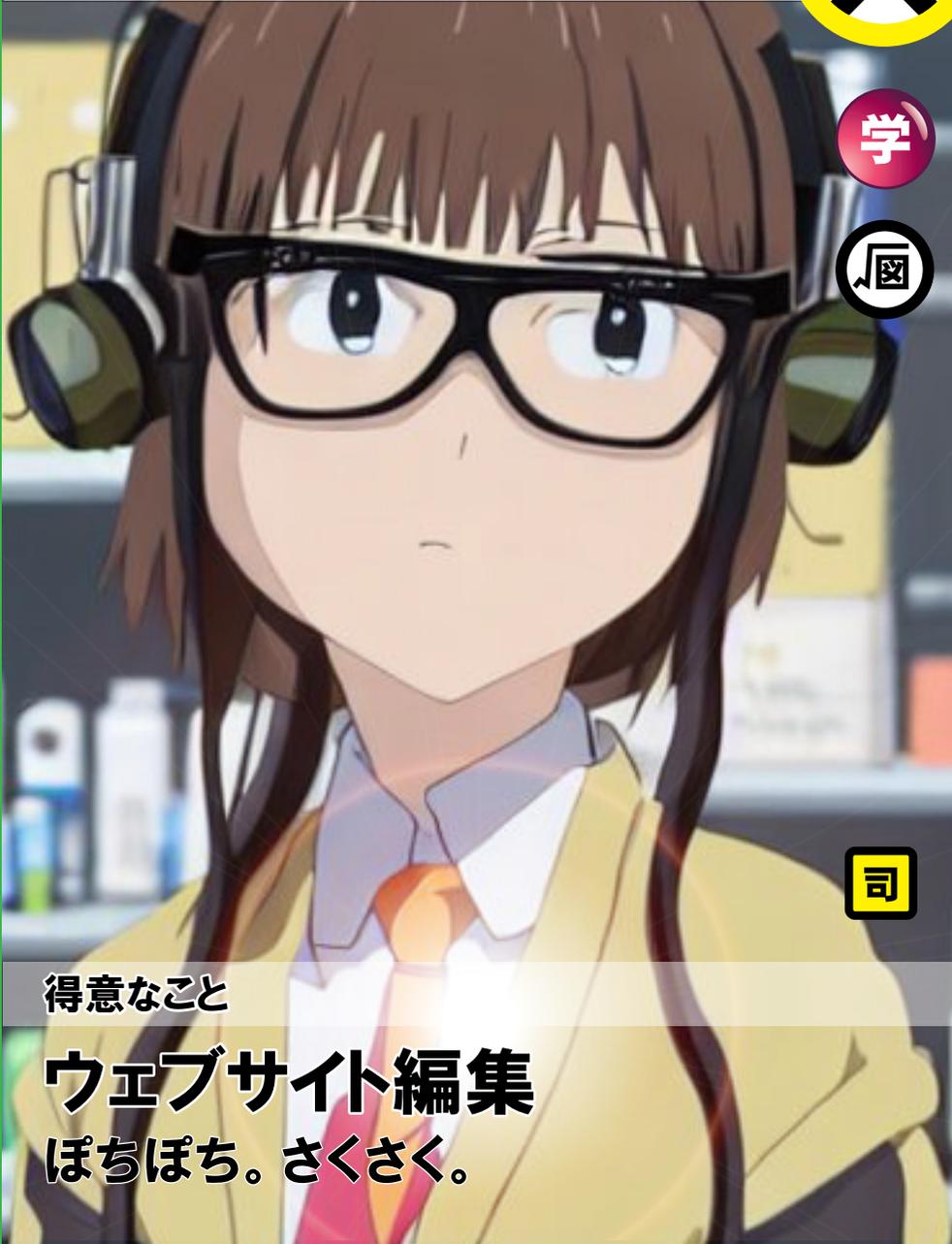
世の中の知識の最先端を常に生み出している「研究」の近くで働けることでしょうか。また、これから世の中で活躍する学生に広い知識を提供することで影響を与えることができるのもいいですね。結局、世の中を幸せにするために最も必要であると思われる「知識」の近くで働けるのは純粋に楽しいです。

私が考える2050年の大学図書館

過去30年はWebが広まった30年だったと思います。これから30年はWebが全てのベースになる30年になると思います。図書館だけではなく世の中全てがリアルとWebが逆転し、Webを基本とした図書館に、リアルな図書館をどう組み込むか、その形が固まってきている2050年なのではないかな、と。

大島さん

LV 7



得意なこと

ウェブサイト編集
ぽちぽち。さくさく。



なぜ大学図書館員になったのか
海辺のカフカを読んだことがきっかけです。

得意な仕事

デスクワーク全般。

苦手な仕事

書架整理。

大学図書館で働く押しポイント

図書館という静謐な職場。かつ、公立図書館と違って
変な人も来ない。

私が考える2050年の大学図書館

見当もつきません。

クマっくマ

Lv10



学



司

得意なこと

**利用者の方にやわらかく接すること
いつでもお声かけください★**



なぜ大学図書館員になったのか

必要とされている情報を届けたい、そしてそれが研究や社会に飛び立つ人材育成につながり、結果としてよりよい社会への間接的な貢献できているのだとしたのなら、それは素敵なことだろうなと思いました。

得意な(好きな)仕事

資料の修理(一時的な修理から、長い目で見た修理まで。取り組む機会はなかなかないですが。)

苦手な(嫌いな)仕事

イベント企画、マニュアル作成。

大学図書館で働く押しポイント

文献検索や調べもののお手伝いをする中で、日常生活では接することのない分野や内容に触れられることがあり、難しくもあり面白くもあります。

私が考える2050年の大学図書館

電子やバーチャルが進み、物理的な存在としての規模は小さくなるのではと思いますが、従来のもの(人、資料、施設など)も引き続き必要とされ存在しているのではないのでしょうか。

星しいたけ

LV 3



学

図

転

司

私の前職

国立工業高等専門学校職員

得意なこと

レファレンスサービス

…調べものをサポートするサービスのこと。



なぜ大学図書館員になったのか

小さい頃から学校の図書室や地域の図書館が好きで、よく本を読みに行く子どもでした。高校生の時の夢は小説家でしたが、早々に挫折。それでも本に携わる仕事がしたいと思い、図書館司書の仕事内容が楽しかったので(ここ重要)、図書館情報学を学べる大学に進みました。最初の採用は国立工業高等専門学校(高専)で、図書館運営の楽しさに目覚め、異動して現在大学図書館員として働いています。

得意な(好きな)仕事

好きな仕事はレファレンスサービスとカウンター業務です。本に携わるのと人と関わるのが好きなので、お仕事めっちゃ楽しいです。とはいえまだまだ経験不足で、毎回著作権と情報の海と格闘していますが、これだ！と思うものを見つけた瞬間がたまらなく嬉しく、またそれを利用者に伝えて、喜んでいただくと「この仕事に就いて良かった」と心から思います。利用者の調べたいことを手助けできる自分の仕事を誇りに思っています。

苦手な(嫌いな)仕事

財務会計システムが苦手です。会計関係でレアケースな業務が発生すると、理解するのに時間がかかったり、たまに頭が爆発しそうになります。あとは外国語でのサービス対応です。ひみつ道具「ほんやくコンニャク」の開発を待ち望んでおります。

大学図書館で働く推しポイント

利用者のほとんどが大学生や教員なので、レファレンス業務で利用者からの聞き取りや、方々調べているうちに、自分の人生で通ってこなかったことがたくさん出てきて、いくつになっても勉強になり、賢くなった気になります。あと、カウンターは学生対応がほとんどなので、学生さんから元気をもらえます。

私が考える2050年の大学図書館

国民からの需要に伴い、電子図書館としての役割が重要視されそうです。利用できるデータベースの数も増加、公衆送信の利用も増えていると思います。とはいえ著作権もありますし、すべて電子化で賄えることはないでしょう。学修・コモンスペースとしての図書館の需要もありそうですので、その辺りは上手に住み分けして共存していると思います。

ゼロベース

Lv11



私の前職

民間企業で経理部所属

得意なこと

システムの運用

OPACや業務システムの面倒を見ることです。

なぜ大学図書館員になったのか

民間企業での仕事が業務内容的にもモチベーション的にも肌に合わなかったということがあり、転職先の検討を始めました。公務員を考えたのですが、事務職では前職と代り映えしなさそうだったので、本が好きだったこともあり図書館員を選びました。その中でも大学に流れ着いたのは…ご縁ですね。

得意な(好きな)仕事

ゼロベースであーでもないこーでもないといろいろ考えるのは何によらず好きだったりします。

苦手な(嫌いな)仕事

既存の、あって当然というようなものを維持していくのはプレッシャーが大きくて大変だと感じます。

大学図書館で働く押しポイント

ざっくり言って働きやすいです。有給も取りやすく、制度も充実しているのも、プライベートに合わせて調整しやすいです。あと、自分の職場は優秀でかつ穏やかな人が多く、安心感があります。結局そういったことが他のすべての押しポイントの基盤になると思うので、まずもって推していきたいポイントです。

私が考える2050年の大学図書館

扱う資料の範囲が広がり、より専門性を求められるようになる一方で、場としての図書館の機能も維持していかなければならないので、職員の役割も二分化していくかもしれないと思います。

ぱわっぽ

Lv 14



他

技

転

司

私の前職

(同じ大学職員だけど) 教室系技術職員

得意なこと

敢えて言えば…
目録。



なぜ大学図書館員になったのか

勤務していた大学で技術職員の定員削減があり、自分がそれに当たってしまった。どうしたいか希望を聞かれたため、「図書館に行きたい」と何となく言ってみたところ、そうってしまった。

得意な(好きな)仕事

敢えて言えば…目録。(工学部の資料であれば、人に聞かなくても分類はだいたいイメージできる)

苦手な(嫌いな)仕事

カウンター。英語ができないので留学生対応が難しい)

大学図書館で働く推しポイント

今はなんだかんだで情報化の時代。理工学系(特に情報工学)がバックボーンにある方なら、仕事をする上で割と無敵な環境ではある。

私が考える2050年の大学図書館

先進的な大学なら、紙の資料はもうない。それと、運営側の「人」も存在していないかもしれない(24時間完全無人開館ということ)。

りん

Lv34



得意なこと

企画の立ち上げと実行★

新しい企画などを提案し実施すること。



なぜ大学図書館員になったのか

家族に大学図書館関係の仕事をしているものがおり、自分も図書館の仕事が合っているのではと思ったのが応募のきっかけです。

得意な(好きな)仕事

選書・図書館の押し本の紹介・リテラシー関係

苦手な(嫌いな)仕事

予算計画。

大学図書館で働く押しポイント

いろいろな業務のサポートとして学生の方に図書館で働いていただいています。学生とともに働くことができることも押しポイントのひとつかなと思います。

私が考える2050年の大学図書館

電子資料と紙の資料、ネット空間の場と実際の学修や交流の場としての図書館が、バランスよく共存し、ともに活用されているとよいと思います。

白うさぎ

Lv 10



学



司

得意なこと

企画展示・テーマ展示

図書館資料の面白さをアピールすること。



なぜ大学図書館員になったのか

子どもの頃から図書館が好きで、「図書館という素敵な場所を、多くの人に知ってほしい」と思ったから。大学図書館を選んだのは、土日休みの方がプライベートを充実させやすいと考えたから。

得意な(好きな)仕事

得意な仕事は企画展示。人目につかない資料を発掘して、利用者に面白いと思ってもらえる企画を考えるのが楽しいです。また、レファレンス回答により利用者に感謝された時は何よりも嬉しいです。

苦手な(嫌いな)仕事

外国語の資料を読み解くこと。延滞者への督促。

大学図書館で働く推しポイント

学生や教員の役に立っているという実感を得られる仕事です。また様々な企画・提案やポスター作りなど、自分の意見を反映させられる機会も多いと思います。

私が考える2050年の大学図書館

本棚に行かなくても欲しい本が入手できる(電子ブックなど。紙媒体は自動書架で、図書館入口で1クリックするだけで目の前に本が届く)。けれど個人的には、本がずらっと並んだ棚をブラウジングするのが好きです。

ツキヨミ

Lv 38



学



司

得意なこと

聞き取り調査

利用者の求めている情報を聞き出すこと。



なぜ大学図書館員になったのか

大学で学んだことを生かせる職種だったから。本に囲まれて仕事をするのも好きです。わざわざ出かけなくても、いつでも読みたい本を借りられる職場です。

得意な(好きな)仕事

イベントの企画業務。利用者を一人でも増やすことに全力を注ぎたいです。ブックカバーをつける仕事も大好きです。こつこつ無心で行えるので、パソコン入力業務から離れたいときにうってつけです。

苦手な(嫌いな)仕事

予算削減業務。図書館は大学の教育・研究を支えていますので、削減されないように精一杯折衝しますが、なかなか理解を得られず、意気消沈することがあります。

大学図書館で働く押しポイント

公共図書館とは異なり、大学の教育・研究を直に支えている部門です。素晴らしい研究者を育てられるのは、図書館職員の下支えがあるからです。

私が考える2050年の大学図書館

後世に現代の情報を伝えるため、資料の媒体を問わず、様々な人が、自由に好きな時間にほしい情報に触れられ、研究者同士の交流の場になっていると予想します。

しおぱん

Lv 4



学



H 司

得意なこと

電子資料の契約・管理

おまかせください。



なぜ大学図書館員になったのか

大学で学んだ知識やスキルを活かして、研究や教育の支援ができる仕事がしたかったから。

得意な(好きな)仕事

好きな仕事は企画展示です。利用者の反応を実際に感じられるのでやりがいを感じます。どうしたら利用者の興味を引けるかを考えながらテーマや展示方法を試行錯誤することが楽しいです。

苦手な(嫌いな)仕事

苦手な仕事は利用ガイダンスや講習会などの人前で話す仕事です。緊張して上手くいかないことも多く、苦手意識を持っています。緊張しないためには慣れが必要だと思うので、経験を積んで克服したいです。

大学図書館で働く押しポイント

最先端の研究や教育を支える一員として働くことができます。また、大学図書館は絶えず変化し続けているので、様々な情報を取り入れながら挑戦できる仕事だと思います。

私が考える2050年の大学図書館

現物の資料はほとんどない。

かまめ

Lv30



私の前職

病院、学校図書館

得意なこと

マネジメント

経験が長いので、だれに頼めば何をしてくれるのかがわかります。



なぜ大学図書館員になったのか

大学で哲学を学び、総合知に憧れました。それを実現しているのが、大学図書館。その現場を支えたいと思い、志願しました。

得意な(好きな)仕事

なんでもします。

苦手な(嫌いな)仕事

外国語をしゃべるのは苦手です。

大学図書館で働く推しポイント

知の探求と普及に貢献できます。

私が考える2050年の大学図書館

電子書籍が普及し、ほとんどの資料は自宅から読むことができます。読むべき本はAIが教えてくれるかもしれません。でもそれだけだと味気ないですね。図書館は思いがけない人や本との出会いの場、リアルで、わくわくする交流空間となっているでしょう。

近畿 Lib 男

Lv20



学



司



得意なこと

配架

これにはじまり、これに終わる。



なぜ大学図書館員になったのか
情報と人をつなぐ仕事につきたかったため。

得意な(好きな)仕事

人の役にたつ仕事。

苦手な(嫌いな)仕事

不必要な仕事。

大学図書館で働く推しポイント

公共図書館にはない資料に携われる。

私が考える2050年の大学図書館

宇宙に飛ぶ。

Ms. くらげ

Lv 19



学

図

転

司

私の前職

公共図書館非常勤職員

得意なこと

古い資料の整理

薄く広くなので特にこれが！というのが難しいのですが、こつこつ出来る古い資料の整理は結構得意な方かもしれません。



なぜ大学図書館員になったのか

ライフスタイルに関わらず長く働け、専任で本に関われる仕事だったので。

得意な (好きな) 仕事

建物の改修はサービスが改善できるきっかけになるので結構好きです。

苦手な (嫌いな) 仕事

イベントの開催など企画力が問われる仕事。

大学図書館で働く推しポイント

本の購入・整理はもちろんのこと、システム構築、電子ジャーナルの整備、建物改修等々多岐に渡る仕事が経験できること。

私が考える2050年の大学図書館

電子書籍が主流になり、来館の必要性が薄れつつもなんとなくみんなが勉強しに来る場所。



修



転

司

私の前職

地方公務員（市役所）

得意なこと

視界文字列検索

本棚から目的の本や誤配架された本を見つけるのが得意です。



なぜ大学図書館員になったのか

学生時代に大学図書館でアルバイトをしたことがきっかけです。人と知識を結びつけ様々な可能性を生み出す図書館サービスの魅力や、知にアクセスする環境を整える喜びを感じ、図書館員を志望しました。大学院修了後の司書資格取得や地方公務員からの転職等を経て今に至ります。

得意な（好きな）仕事

各種問い合わせに回答すること。わかりやすさと参考になる情報を渡すことの両立を意識して、伝える情報の範囲や順番などを考えるようにしています。苦労もありますが、やりがいも大きいです。

苦手な（嫌いな）仕事

集団に向けてレクチャーすること。緊張で説明事項が飛びそうになるので、読み上げ用の原稿がなかなか手放せません。

大学図書館で働く押しポイント

自分の提供するサービスが誰かの知見を豊かにし、それがさらに人類知の発展や深化に繋がっていると実感できることです。未知の分野や言語、新しい学術情報のトレンドなどにも出会う機会が多く、知的な刺激に富んだ仕事であることもおすすめのポイントです。

私が考える2050年の大学図書館

その頃には調べものも書きものもAIをフル活用するようになっていて、その使い方やリテラシーを学ぶ講習会が人気になっていたりするのかもしれませんが。



学

図

司

得意なこと

人と話すこと、迷い本を見つけること

学内外を問わず話します。そしてラベルから誤配架場所を推測します。



なぜ大学図書館員になったのか

大学入学前の就業(ILL補助)、在学中のアルバイト(閲覧、カウンター)経験から知の最先端で働きたいと思うようになりました。

得意な(好きな)仕事

配架&書架整理(今は配架をすることがほとんどないのでリフレッシュになります。配架後のきれいな書架を見るのが好き)、レファレンス。(謎解き感覚で挑戦します。まだまだ知らないことが多くおもしろいです)

苦手な(嫌いな)仕事

報告書作成。(文章を書くのが得意ではないので、そもそも取り掛かりが遅いです。取り掛かるまでが苦手)

大学図書館で働く押しポイント

色々な仕事があるのが魅力です。黙々と職人のように行う配架、目録から、人と話すレファレンス、カウンター、そして学生たちの学びを助けるリテラシーまで幅が広く、興味がつきません。

私が考える2050年の大学図書館

論文もデータも完全OA化されて、シリアルズクライシスって何? という世界になっている。配架はロボット、貴重書はすべて電子化、図書館員は人と接する部分のみに配置されている。

レファ

Lv27



学



転

司

私の前職

伝統芸能劇場非常勤

得意なこと

目録

最初の担当だったこともあるけれど、結局は一番楽しい。



なぜ大学図書館員になったのか

レファレンスの授業で感じたワクワク感を、いろんな人に知ってほしいと思ったから。

得意な (好きな) 仕事

除却リストの作成/何を残すかは、総合的な知識と経験が必要で、今だからできる仕事、と思う。成果も見えるので達成感あり!

苦手な (嫌いな) 仕事

法人文書管理と振替 どっちも面倒すぎる。

大学図書館で働く推しポイント

地震や工事やコロナで図書館が使えなかった経験を何度か経て、利用者にとって水のような、あって当たり前を整えている仕事なんだなと実感しました。ありがとうと言ってもらえるのも嬉しいけど、その先もあるってところ。

私が考える2050年の大学図書館

日常で利用する定番教科書は全部電子資料になる。図書館の仕事の重点は契約や、資料を紹介する仕事。紙の資料は重複整理などが進行する。今のカウンターやILLもなくなるとは思うけれども。

シャケ太郎

Lv 3



学



転

司

私の前職

公共、学校図書館司書

得意なこと

テキパキこなす

利用者のニーズに素早く的確に応える！...
を目指しています



なぜ大学図書館員になったのか

大学生時代、図書館の調査相談デスクにお世話になりました。徹底的に調査を進める姿が情報の探偵みたいでカッコいい...という憧れを持ってこっちの世界に。

得意な（好きな）仕事

資料収集の部署にいます。表にはあまり出ませんが、出版社や書店と利用者をつなぐ、縁の下の力持ち！と自負しています。

苦手な（嫌いな）仕事

ずーっと資料リストを見ていると眼がショボショボしてくることも。紅茶を飲んでリフレッシュしています。

大学図書館で働く押しポイント

専門性の高さ、また研究支援を通して社会貢献できること。大学図書館員同士のつながりも魅力です。

私が考える 2050 年の大学図書館

デジタル化が更に進んで図書「館」というかたちは無くなっていると思います。学内のどこにでもデバイスを持って現れる、「どこでも図書館員」が活躍しているかもしれません。

ぽちぽち

Lv29



学



司

得意なこと

いろいろ調べること

あっちもこっちも★



なぜ大学図書館員になったのか

学生・教職員などあらゆるステークホルダーとともに教育・研究に微力でもかかわりたいと考えたため。

得意な（好きな）仕事

さまざまな情報調査。

苦手な（嫌いな）仕事

細部の調整。

大学図書館で働く押しポイント

携わる業務によって主たるステークホルダー（例：中央図書館なら学生、部局図書室なら教員も対象に加わる）が変わり、その積み重ねで自分が勤務する大学の魅力を再発見できること。

私が考える2050年の大学図書館

仮想空間が当然の世界になるかもしれないが、一方で過去の蔵書の蓄積を生かし、どう融合させるかの方向性が決まっているかもしれない。

マーモ

Lv23



得意なこと

図書の補修

ページの破れを和紙と糊でつくろうなど、簡易なもの。



なぜ大学図書館員になったのか

図書館という場所が好きだったので、図書館で働きたいと思っていた。

得意(好き)な仕事

配架、書架整理。その合間に閲覧室で困っている利用者の相談にのること。

苦手(嫌い)な仕事

予算管理。クレーム対応。

大学図書館で働く押しポイント

教育や研究を支える仕事ができること。
土日が休み。

私が考える2050年の大学図書館

業務の比重が研究支援にシフトし、研究推進の部署と一統合している。

ポンポン

Lv 1



私の前職

地方公務員

得意なこと

カウンター業務、接客対応

対応のたびに、館内設備や機能をどれだけ把握しているか再確認出来て、よい刺激になります。

なぜ大学図書館員になったのか

専門性があり、じっくりと深めていく業務スタイルに魅力を感じたため。図書館を運営・維持していくという大きな目標があれば、担当者によって対応がまちまちになるということは少ないだろうと思ったから。(実際はそうはいかないけど)

得意(好き)な仕事

利用者(学生)に、文献調査の方法や調べ方を伝えるのは、難しいですが手ごたえがあります。

苦手(嫌い)な仕事

冬の、館内バルコニーの除雪……(笑)

大学図書館で働く押しポイント

未来ある学生の方の、成長に少しでも携わることができるのが魅力です。一人ひとりの学びが、論文や研究発表といった形で学問の世界に寄与され、それがまた次の世代の学びにつながるという流れをスムーズにさせる、掉さすことが大学図書館で働くことのやりがいになると思います。

私が考える2050年の大学図書館

紙媒体はなくなるとは思うが、オープンアクセスの論文がもっと増えることで、高速インターネットを提供する場になっていくと思う。だが、課題について話し合ったりともに作業をするということはないと思うので、ラーニング commons としての場づくりや、学内でありながら少し教員の目を離れて逃げ込めるサードプレイスとしての役割も果たすよう求められるようになると思う。



東海けん

Lv 2



得意なこと

リテラシー講習会の講師役

講習会で文献の探し方などを教える役です。

なぜ大学図書館員になったのか

図書館で働きたいとは高校生ぐらいから思っており、就職活動の際に公共図書館などと併願して受けていました。当時コロナの流行り初めの年で大学図書館は面接などがオンラインであり、公共図書館が対面なのに対してその適応の早さから図書館職員として新しいことへ取り組んでいけそうだと感じたからです。

得意(好き)な仕事

好きな仕事は、購入した本や雑誌をシステム上の処理を行い貸出可能な状態へ装備等を整えることや、情報が登録されていない資料のデータ(検索した時に出る本の情報)を作成することなどの本に触れる仕事です。

苦手(嫌い)な仕事

苦手な仕事は、業者の方との契約交渉や予算の計算をすることです。

大学図書館で働く推しポイント

図書館という場所に関わっていけること、大学生の時に関わってこなかった学問分野について関わるができる。なかなか普段関わることの少ない大学の先生と話したり、学生と話したりする機会がある。大学で契約しているデータベースを使うことができる。様々な研修や講演、セミナーがあり学べる機会が多いことです。

私が考える2050年の大学図書館

紙の資料も価値を残しつつ、よりデジタルにスムーズな連携が大学間で行われ、大学によってはバーチャルな図書館がメインとなる。利用者の希望(レファレンス)に対する連携はもちろんのこと、図書館員同士も研修だけでない情報交換、交流がオンライン上で日常的に行われるようになる。



SING

Lv 19



学

図

転

H 司

私の前職

販売

得意なこと

企画展示

アイデア出し(だけ?)が得意。



なぜ大学図書館員になったのか

就職活動は館種問わずしましたが、学生さんたちへの講義やILLなど、教育研究に関わる仕事ができることに魅力を感じたから。

得意(好き)な仕事

閲覧席のレイアウト変更 お気に入りの席を見つけると嬉しい。

苦手(嫌い)な仕事

電子ジャーナル契約業務 基本的に負け戦で、いかに傷を浅くするかを考える仕事はツライ。

大学図書館で働く押しポイント

オープンサイエンス、DX、AIなど新しいトピックが次から次へと押し寄せる業界で、まだ自分の知らないことがこんなにある!と日々好奇心を刺激されます!

私が考える2050年の大学図書館

基本機能はメタバース内で行われるが、紙資料の価値が異常に高くなって、書庫の資料を文字通り触りに利用者が殺到し、書庫の紙資料がすべて貴重資料に。。

サイトー

LV 7



得意なこと

Web デザイン

利用者にとって使いやすいWebサイトを考えます。



なぜ大学図書館員になったのか

大学1年生のときにたまたま友達に誘われて受講した図書館系の入門授業がきっかけだったように思います。その授業で「図書館は本を借りるところ」というイメージが一変し、4年生になるころには図書館で働きたいと思うようになりました。大学図書館がよい、と思ったのは自大学の図書館の影響が大きいです。

得意(好き)な仕事

Webや広報物のデザイン・ライティング、ガイダンスなど。どうやったらわかりやすく伝わるかを考えるのが好きなようです。

苦手(嫌い)な仕事

お金が絡む仕事。算数が苦手なのだと思います。

大学図書館で働く推しポイント

他の職業もそうかもしれませんが、意外と大学図書館も時代時代に合わせて変化していくので、新しいことを模索しながらチャレンジできるところかなと思います。

私が考える2050年の大学図書館

このころまでには、場としての大学図書館をオンサイト・デジタルのハイブリッド化ができているとよいなあと思います。

swimlibrarian Lv 13



修



司

得意なこと

資料保存

古い紙資料の保存環境整備、補修など。



なぜ大学図書館員になったのか

子どもの頃から図書館の空間が好きで、大学の司書課程で学ぶうちに「司書は人と情報をつなぐ仕事」と知り、大学図書館ならばその人と情報をつないだ結果が、学生や研究者の学習と研究成果につながっていくのだなと感じたからです。

得意(好き)な仕事

傷んだ資料の補修作業。時間と手間はかかりますが、壊れて使えなかった資料がまた利用者の手に戻っていくのはうれしく感じます。その他の仕事でも、資料現物に触れる仕事は好きです。

苦手(嫌い)な仕事

先の方までスケジュールを立てて計画的に進めなくてはならないような仕事。自分が一夜漬けタイプなのでどうも苦手です。

大学図書館で働く押しポイント

古くからの図書館業務も、デジタル化やオープンアクセス、研究支援といった先端的な業務も両方あるところ。

私が考える2050年の大学図書館

具体的なイメージを持つのは難しいのですが、学内外という色々な面で連携が進むと思います。組織的に一体化する図書館も増えるのではないのでしょうか。サービスを量的に拡大するよりは、図書館が持ついろいろなリソースを、対象を絞って集中させたサービス展開を行うのではないかと思います。

背肉鶏

LV 9



修



司

得意なこと

分かりやすい説明

利用者に対する分かりやすく簡潔な説明・案内。



なぜ大学図書館員になったのか

子供のころから司書になるのが夢だったが、公共図書館や小中高の司書教諭はポストが少なく、安定した職とは思えなかったので大学図書館ならずっと働けると考えた。さらに大学院に進学し、研究で図書館を使う機会が増えると、学術研究と図書館の不可分なつながりを意識するようになった。

得意(好き)な仕事

メタデータ入力作業やデジタルアーカイブのスキャン作業。単純作業のためアルバイトさんに任せることが多いが、会議資料の作成や利用者対応で疲れた頭を休ませるために、手を動かす作業をしたくなる。

苦手(嫌い)な仕事

教授会、FD、講習会等、大勢の人の前で発表・説明する仕事。

大学図書館で働く推しポイント

大学図書館・図書館業界ではウェビナーなど知識の共有が積極的で、勉強熱心な人が多いように思う。自己研鑽が好きで続けたい人に特におすすめできる。

私が考える2050年の大学図書館

来館(しなければ使えない)サービスはかなり減って、図書館で勉強したい、人と会いたいという、空間を利用したいという人だけが来館するようになる。雑誌や古典籍はデジタル化が進み、どこからでもシームレスに利用できるようになるため、その利用環境(インフラ)が整備されていることは、実験施設が整っていること等と同様に大学選定の基準になるかもしれない。

ViVi

Lv 12



学

図

転

司

私の前職

公共図書館の非常勤職員

得意なこと

窓口対応

適度な距離感で対応します。

なぜ大学図書館員になったのか

本に囲まれていたかったから。書店や公共図書館も受験できる場所はどこでも受けていたら、大学図書館で採用された。

得意(好き)な仕事

書架整理。配架。自分の知らない世界がたくさんあることが分かる。自分の図書館にどんな資料があるかを把握することもできて良い。

苦手(嫌い)な仕事

委員会などの事務的資料の作成・確認。Excelなどの表データをパソコンの画面で見ていると、目がチカチカする。

大学図書館で働く押しポイント

冊子体の本や雑誌だけでなく、電子ブックや電子ジャーナル、加えて研究データも取り扱うようになってきているように、学術情報流通の変化とともに自分の図書館観を変えていけるところ。

私が考える2050年の大学図書館

情報提供のサービスは、電子に移行していると思う。また図書館というリアルな場は、書庫やサーバの置き場所として、サービスを支える機能を担っていると思う。



孤高の交渉人

Lv22



学



司

得意なこと

書店や代理店との各種調整
あれやこれや。



なぜ大学図書館員になったのか

大学学部時代の卒業論文作成時に、文献を集めるのに苦労したことがきっかけです。文献収集に集める時間を短縮し、入手できない文献を減らすことをすることで研究者の役に立ちたいと思うようになりました。

得意(好き)な仕事

管理系の仕事が得意です。図書・雑誌の購入に際に発注者、書店との調整をおこなうことを長くやっており、かなり経験を積むことができました。

苦手(嫌い)な仕事

これまで、目録系の担当に配属されたことがないので、この周辺の業務が苦手と言えば苦手です。

大学図書館で働く押しポイント

学生・教員の学習・研究を支援することで、他の部署とは違った視点で日本の研究・高等教育の現場を見ることができます。

私が考える2050年の大学図書館

電子化は飛躍的に進むと思いますが、紙の資料が完全に消えることはないと思います。2010年あたりの紙と電子の比率が逆転している位だと予想します。電子媒体の資料が基本となり、電子化できない紙の資料の保存・提供方法をどのように確保するかを議論しているのではないのでしょうか。

本野かおり

Lv 10



学



司

得意なこと

書庫ごもり

点検調査や遡及入力のために1日中書庫にいても平気です。

なぜ大学図書館員になったのか

自身が大学1回生のときに、情報探索の授業を受けたことで、その後のレポート作成などがスムーズに進めることができ、卒業研究まで資料の探し方に迷うことはほとんどありませんでした。この経験から、自身も大学図書館で学生さんの学修のサポートをしたいと思い、大学図書館を志望しました。

得意(好き)な仕事

好きな仕事は目録作成です。自館にだけしかないような珍しい資料や古典籍について、データを見たらその資料が想像できるようなわかりやすい記述を心がけています。様々な資料に触れることができ、資料から時代を感じることができるのも楽しいです。

苦手(嫌い)な仕事

背の高い書架への配架です。背が低いので、一回一回踏み台を使わなければならない、とても時間がかかってしまいます。

大学図書館で働く押しポイント

学生さんや先生、そして所蔵資料を通じて古今東西の知の集積に触れることができ、わくわくします。福利厚生も整っており、休暇や休業も取りやすいです。

私が考える2050年の大学図書館

日本全国の大学や学術機関のOAPCやデジタルアーカイブが横断的に検索できるようになるか、一つのプラットフォームでまとめ、大きな仮想大学図書館ができています。



めいたんてい

Lv 15



修



司

得意なこと

迷子の本を探すこと
本の名探偵。



なぜ大学図書館員になったのか
お世話になった恩返し。

得意(好き)な仕事
相談。

苦手(嫌い)な仕事
計算。

大学図書館で働く推しポイント
学術情報流通のトレンドを Lock On☆できること。

私が考える2050年の大学図書館
「え！まだ紙の本なんてあるんですか！？」ってなっ
てる。

やまねこ

Lv23



得意なこと

新規開拓

学祭イベント新コーナー企画新装開館など。

なぜ大学図書館員になったのか

新採用直後事務職採用にも関わらず図書館配属。たまたま隣の係長から他の大学に勤務しながら夜学で司書を資格取らないかと誘われ、人事交流枠を生かして3年間ほど国内留学。復帰後東日本大震災の影響で参加者枠に余裕があった図書館職員長期研修受講。以来図書館一筋。

得意(好き)な仕事

教員や学生へのガイダンス=コロナ禍では新入生向けと卒論作成者向けの動画も制作
改修工事=耐震改修や設備更新など設備や図書の大掛かりな移動の時には、当該部署によく引き寄せられる。
参考調査=遺跡発掘調査報告書やミツチな業界誌などを地の果てまで探す。

苦手(嫌い)な仕事

週一回のミーティング=分館勤務なので本館の内輪ネタになると手持ち無沙汰

大学図書館で働く押しポイント

利用者の笑顔に会えること。ガイダンスでも参考調査でも利用者の「おおーっ！」と驚く顔を見るのは快感。
他大学の職員とのつながりを持てること。図書館業務についての疑問は他大学の同業者に聞いた方が助かることが多い。長期研修の同期とのつながりは今でも宝物。

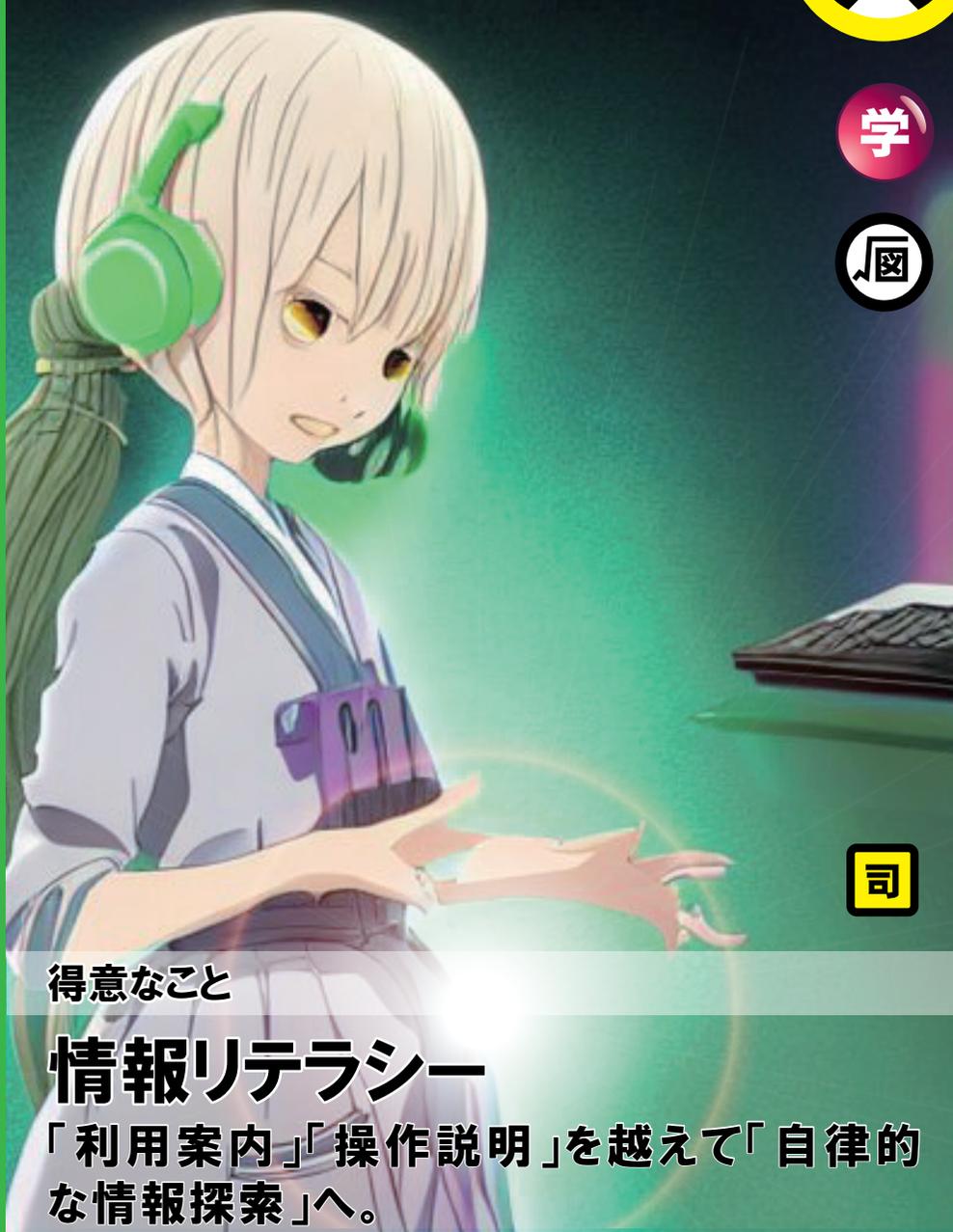
私が考える2050年の大学図書館

従来の読書と学習の場としての役割は資料の電子化やオンライン化により減少し、講習会や発表会といった交流の場としての役割が増えてくる。資料整理情報検索だけでなく講習会のプレゼンや動画の制作SNSでの発信などに必要なスキルが要求されるようになる。「恥ずかしいから嫌です」「わからないからできません」が今以上に通用しなくなると思う。



りてら S

Lv 19



学



司

得意なこと

情報リテラシー

「利用案内」「操作説明」を越えて「自律的な情報探索」へ。



なぜ大学図書館員になったのか

本当にいろいろな属性の人が行き交う「大学」という場が好きで、自分が大学を卒業してもこの場に留まりたいと思ったから。
また、経済的に厳しい中で研究する人が身近にいて、研究資料にはお金がかかる→図書館で支援できないか?と思ったから。

得意(好き)な仕事

情報リテラシーに長いこと関わっています。新人の頃は前に立って話すだけで気が重かったのですが、年数を重ねるうちに伝えたいことが明確になり、講習会などの場を楽しめるようになりました。近年はオンライン講習も試行錯誤しつつ経験しています。

苦手(嫌い)な仕事

細かい数字は苦手です。雑誌契約担当などになったらどうしよう...と思います。

大学図書館で働く推しポイント

提供する一つ一つのサービスは小さなことですが、資料の提供をはじめ学習研究の支援が学問の発展につながり、平和で幸福な社会に少しでも貢献できると思えるところです。

私が考える2050年の大学図書館

紙の本はきっとなくならないでしょう。

たらお

Lv 10



修



司

得意なこと

複写印刷

資料と用紙の中心を揃え、余白は白く、**図版を活かす濃度に調節!**



なぜ大学図書館員になったのか

卒論を抱え途方に暮れていた時、先行研究が並んだ大学図書館の書架を見て「こういうことを調べようという自分は、一人ではないんだな」と思いました。様々な視点で世界を理解しようとする人々の営みを蓄え、新しい活動も支える図書館に魅力を感じると同時に、利用がもっと便利になればとも考えるようになり、ここで働きたいと思いました。

得意な(好きな)仕事

書架の整理が好きです。作業としての達成感とともに、書架の使いやすさは物理的な図書館全体の使いやすさとして大切だと日々気づかされます。本の修繕や、新しい本の登録なども、書架の整理から始まり、帰結すると思います。デジタル時代の整理は、モノが並ばない分、適切なデータ作りからだなあとも考えています。

苦手な(嫌いな)仕事

苦手なのは、お金の管理に関わる仕事です…。携わっていたときには、手順ひとつひとつを着実にとり行うよう心がけていました。

大学図書館で働く推しポイント

仕事で扱う資料やデータ、お会いする利用者さんの姿やお話を通して、世界はとでも多様で、広くて、不思議であることと、世界を様々な視点からエネルギーに理解しようとする人々の営みがあることを、肌身に感じられます。そして、その営みのサイクルの一部になり得る仕事に取り組むことができます。

私が考える2050年の大学図書館

資料もサービスもデジタルシフトしていくと思いますが、学内外の全ての人々が適切に学習・研究の資源にアクセスできるよう、それらに関するよりよいデータを協力して作れる組織・業界であり続けられればと思っています。また、学内向けには、いっそう直接の対話や、教育活動との関連を大事にしたサービスを展開できればと思っています。

ホワイトホース Lv32



学

図

司

得意なこと

利用者サービスの環境を整えること
より良いサービスや空間を。



なぜ大学図書館員になったのか

図書館職員としての身分が確立していること。教員や学生の研究や教育をバックアップしたい。

得意(好き)な仕事

所蔵検索です。利用者の求める資料を見つけるのが好きです。

苦手(嫌い)な仕事

予算獲得などの交渉。

大学図書館で働く推しポイント

教員や学生の研究に身近に触れ合えること。いろんな分野のことがわかり楽しい。

私が考える2050年の大学図書館

より情報に対する精度が求められ、様々なツールが発展し、よりリテラシー能力が必要となってくる。

アカデちゃん

Lv 10



修



得意なこと

情報検索力と情報組織力

お任せください。

なぜ大学図書館員になったのか

情報を検索して、それをまとめて、研究成果が残っていった、という学術の営み全体が好きでした。そんな崇高なものでなくても、日常的に色々な気になることを検索するのって楽しいじゃないですか。そういうものの延長線上です。でも自分で研究者になるのは難しいかなと思ったので、この職を目指すようになりました。

得意(好き)な仕事

自分が学生として学ぶだけでは出会えないような、多様な分野・多様な時代・多様な地域の資料に触れられるのが面白いです。学生時代にいろいろな言語を少しずつ齧っていたのですが、その経験がちよくちよく活きたりします。

苦手(嫌い)な仕事

書き言葉としての言語には強いのですが、話し言葉で人とコミュニケーションすることは少し苦手ですね…

大学図書館で働く押しポイント

情報の荒海の中をうまく泳げるように学生や研究者をサポートすること、そしてその荒海を泳ぎやすいように整備すること、がこの職業のキモだと思っています。自分自身も泳ぐことが好きな人(もちろん比喻です)には向いている仕事なのではないでしょうか。

私が考える2050年の大学図書館

2050年の大学図書館がどう変化していたとしても、2020年代の今を含め過去の情報を参照するニーズが相変わらず存在していることは間違いありません。(学問というものが続いているならば)



メタ

Lv17



学



転

司

私の前職

公共図書館臨時職員

得意なこと

図書館全体の管理運営
専門、非専門含む。

なぜ大学図書館員になったのか

大学時代に図書館なんてほとんど使わなかった癖に、子どもの頃から割と本に親しみはあったからという本当に安直な理由です。しかも初めは公共図書館に興味があり臨時職員をしていましたが、採用試験を受けるにあたりたまたまその年に地元の大学も募集をしていることを知り運よく採用いただいたという流れです。

得意(好き)な仕事

学生向け選書業務です。先生方の推薦図書は、推薦する先生によっては学生寄りというよりも研究者寄りの専門性の強いものが多く、学生が手に取るにはやや敷居が高いものもあつたりします。そこをうまくならずという意味で学生向けに編集された本を集めてきて、それがよく回転したりすると嬉しいです。

苦手(嫌い)な仕事

リポジトリ、メタデータ関係の仕事は得意ではありません。あまり深く関わってこなかったので食わず嫌いな感じも否めませんが、単純に英語が並んでいるだけで難しく感じてしまうのかもしれない。

大学図書館で働く押しポイント

大学図書館は良い意味で大学の中心として経営に直結する存在ではないので、予算の後ろ盾さえしっかりあればわりと自由に企画したり実行できたりします。(企画がうまくいってもいなくても大学の経営自体には大きな影響はない)ビブリアトルもそうですし、今回の100人の大学図書館員展なんて正にそうだと思います。会計や学務系でこういった企画はほとんど聞いたことがないです。なので、色々とチャレンジができる土壌は整っていると思うし、創造性を発揮することができる機会も多い仕事場だと感じています。

私が考える2050年の大学図書館

コロナの影響がどこまで続くのかはわかりませんが、来館者数は今より減るか同等くらいで推移し、ILLの件数もさらに減っていると思います。これまでいわゆる大学図書館「ならでは」であった業務(目録新規作成、ILL等)もさらに減るのではないかと予想します。もちろん大学図書館そのものが無くなることはないと思いますが、電子化、オンライン化が進んだことで新しく時代に沿った図書館像が自ずと見えてくると期待しています。



しらたま

Lv12



修

図

H

司

得意なこと

適切な文献の探し方をアドバイスすること。
また、本文が見つけれないときの探し方を考えること。



なぜ大学図書館員になったのか

研究や教育の基盤になれる仕事だと思ったからです。

得意(好き)な仕事

授業の資料を作ること。その下調べをすること。

苦手(嫌い)な仕事

お金の管理。督促。

大学図書館で働く押しポイント

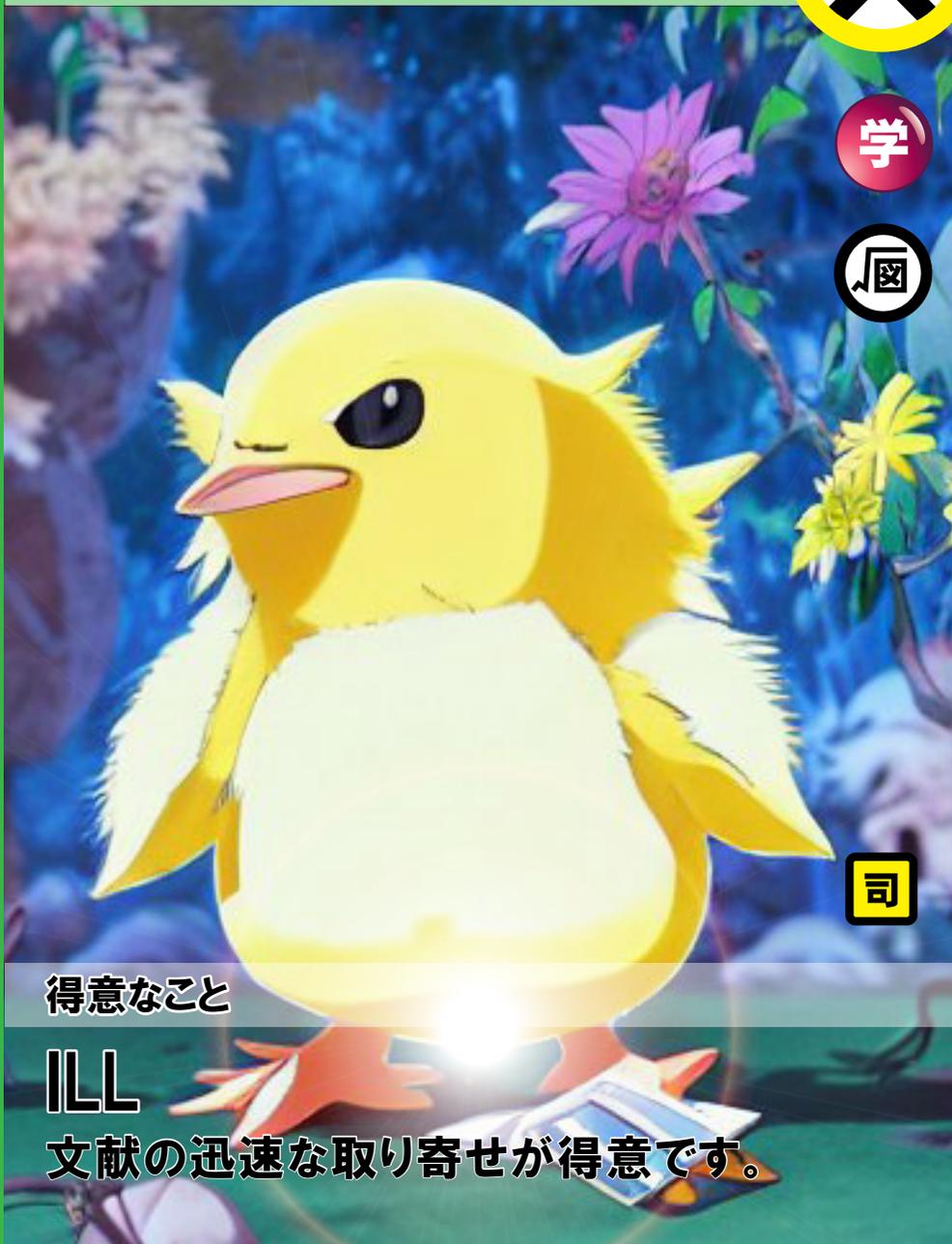
変わりゆく大学を、肌で感じることができます！

私が考える2050年の大学図書館

各大学などで個別の図書館というものは無くなっていて、バーチャルなひとつの図書館集合体に、学術情報が集積され、そこにアクセスするようになっているのではないのでしょうか。

LiLica

Lv 5



学



司

得意なこと

ILL

文献の迅速な取り寄せが得意です。



なぜ大学図書館員になったのか

もともと子供の頃から本に関わる仕事がしたいと思っていました。学生時代に本屋、公共図書館、大学図書館の3つのアルバイトを経験し、各大学の歴史を感じさせるアカデミックな雰囲気の中で、教育・研究支援ができることに魅力を感じて大学図書館で働くことを決めました。

得意(好き)な仕事

全国の大学図書館、公共図書館、また海外の図書館から利用者の求める資料を探し、提供することです。色々な図書館を知ることができます。海外から資料を取り寄せできた時は、達成感があります。

苦手(嫌い)な仕事

講習会の講師をすることです。緊張します。

大学図書館で働く推しポイント

大学としての仕事と、図書館としての仕事、どちらも経験できる場所です。大学の一職員としても図書館員としても研修に参加でき、色々なことが学べます。

また、大学図書館の多様な資料に触れることや、学生・教職員・一般の方など、様々な人と関わることができます。

私が考える2050年の大学図書館

いつでも、どこにいても、学習したい、研究したいを叶えられる図書館です。現在のアクセス数の制限や、ネット回線の問題等解消され、利用者が電子も紙もどちらも不自由なく選択・使用することができ、また、全国の図書館がより強固につながりあって、利用者の求める情報を迅速に提供できるようになってほしいと思います。

ラクチャ

Lv27



学

図



司

得意なこと

構造化

ドキュメントは徹底的に構造化します。



なぜ大学図書館員になったのか

父親の影響。父親が大学図書館員であったが、幼少期（反抗期前）に他界したことから、漠然とした憧れがあったのかも。

得意(好き)な仕事

ドキュメント作成 / 選書。(自分が選書した図書が「貸出中」になっていると嬉しい)

苦手(嫌い)な仕事

利用者への注意。

大学図書館で働く推しポイント

教育や研究の現場で、直接・間接的に手助けすることが可能なこと。

私が考える2050年の大学図書館

紙の図書はなくなりますが、オンデマンドに電子化され、電子形態での利用が主体となる。

ワク山

Lv 19



修



司

得意なこと

選書、蔵書構築など

得意な部類だと思います。

なぜ大学図書館員になったのか

知識を活かせる職場だと思ったから。

得意(好き)な仕事

やられていない新しいことを試行錯誤しながら作り上げていく仕事は好きです。

苦手(嫌い)な仕事

同じことしか言えない説明系のガイダンスはあまり好きではないです。

大学図書館で働く押しポイント

大学図書館でしか体験できない業務がありますし、新たなことにチャレンジをさせてもらえる機会があるのは魅力だと思います。

私が考える2050年の大学図書館

資料収集、提供といった部分は変わっていないと思いますが、対応する資料や関連するツールを駆使して時代に合ったサービスを展開できていければ良いな。



A

Lv 6



学



司

得意なこと

展示物の作成

カッター、段ボール等で色々つくります。



なぜ大学図書館員になったのか

もう少し大学にいたいと思ったからでしょうか。大学図書館で働くと色々な知識を得られそうだと思ったのも一因かもしれません。

得意(好き)な仕事

利用者の方からの問い合わせに対応する仕事はやりがいがあります。

苦手(嫌い)な仕事

細かい作業に集中して取り組むのがあまり得意ではありません。

大学図書館で働く推しポイント

福利厚生がしっかりしていて、休暇も取りやすいです。研究のサポートができたり、気になったことがすぐにデータベース等で調べられたり、学食も食べられたりします。

私が考える2050年の大学図書館

大学図書館の中にいる大学図書館員、という形から、研究者や学生さんに寄り添うような、他の部署・機関とも連携しあう、有機的なものの総称に大学図書館はなっていくのかな、と想像したりしました。

木田ハミ

Lv 10



得意なこと

データチェック、館内ツアーのガイド
どちらも任せて。



なぜ大学図書館員になったのか

大学の卒業論文執筆時に、先行研究や史料を探すなかで、他機関からの文献取り寄せも含め大学図書館のサービスを活用した経験から、私も、資料と利用者さんの橋渡しをして研究をサポートしたいと思ったからです。知の集積として図書館への憧れもあったと思います。

得意(好き)な仕事

新しいサービスを企画したり改善策を考えたりする仕事はワクワクします。

苦手(嫌い)な仕事

高額な電子ジャーナルの契約や予算管理は、緊張感があってハラハラドキドキです。

大学図書館で働く押しポイント

多種多様な仕事があることです。資料の貸出・返却や購入だけではなく、学びの場をデザインする仕事、数百年前の古い資料を保存・デジタル化する仕事、最新の電子ジャーナルを契約する仕事、学内の研究成果を世界に発信する仕事など、多岐に渡ります。

私が考える2050年の大学図書館

古今東西の知、様々な学生や研究者との出会い、手厚い研究サポート・教育支援…など「図書館に行けば何かを得られる！」と皆が魅力を感じて集まる場…になっていると良いなと思います。

ラコモ

Lv 3



学

図

司

得意なこと

入門セミナー等の学習支援

お助けいたします。



なぜ大学図書館員になったのか

研究支援や学習支援を図書館員という立場で行いたかったから。

得意(好き)な仕事

展示企画やイベントなどの立案。最近では、オンライン上で遊べる電子ブックが入ったガチャガチャを作りました。

苦手(嫌い)な仕事

レファレンス業務。まだまだ知識不足で上手くいきません…。うまくできなかったときは先輩にアドバイスをいただいています。

大学図書館で働く推しポイント

学生と一緒に自分も成長できる！様々な研究分野に触れることで今まで学んでこなかった分野に興味がわいたり、勉強したりして日々成長できます。

私が考える2050年の大学図書館

ITに強い学生がたくさん入学してきて、図書館の中もIT機器が増え、より活発なラーニングコモンズができる。